

2011年度学科教育点検・評価(FD)報告書

大阪電気通信大学

教育開発推進センター

学科教育点検・評価(FD)報告書 目次

工学部

人間科学研究センター	1
英語教育センター	3
数理科学研究センター	5
電気電子工学科	12
応用化学科	15
電子機械工学科	17
機械工学科	18
環境技術学科	20
基礎理工学科	21

情報通信工学部

情報工学科	23
通信工学科	25

金融経済学部

アセット・マネジメント学科	27
---------------	----

医療福祉工学部

医療福祉工学科	28
理学療法学科	30
健康スポーツ科学科	33

総合情報学部

デジタルアート・アニメーション学科	37
デジタルゲーム学科	42
メディアコンピュータシステム学科	49

添付資料	資料頁
人間科学研究センター	
1. 資料1 「教養教育のあり方についての Memo」	1-3
2. 資料2 「総合科目 ガイダンス」寝屋川版・四條畷版	4-19
数理科学研究センター	
1. 資料1：2011年度クラス分け結果（数学）	20
2. 資料2：2011AS 数学科目フォローチャート	21
デジタルゲーム学科	
1. W2008年度カリキュラム	22
2. W就職活動記録シート	23
3. W卒業研究制作ガイドライン	24
4. W卒業研究制作スケジュール	25
5. W2012年度カリキュラム	26-27

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け, シラバスについて

工学部 人間科学研究センター (以下、AH センター) は、総合科目群の担当部署として、全学的な視野で本学教育目標に依拠し総合科目群の編成を行い、毎年度前年度の総括を踏まえ必要な改善を行ってきた。

2011 年度においては、新入生オリエンテーション:総合科目ガイダンスの資料作成において、教養教育のとらえ方・在り方、また A (人文・社会・自然) 群、B (英語を除く外国語) 群、C (健康・スポーツ) 群、D (キャリア形成) 群のそれぞれのねらいと意義を明らかにしてきた。

2. 教育改善や授業点検, 成績評価 (平均値, 成績分布, 合格率など) について

中国語や韓国語、また日本語上達法などの履修人数が多数にのぼると予測される科目では、履修制限を設ける、予めクラス数を増やす等により対応してきた。また独・仏・中・韓の各外国語については、履修者制限が困難なことから、予想を超える履修者があった場合は、クラス分割基準を目安に、学生の学習希望の尊重、教育環境の適正化などから、クラス分割を行ってきた。

複数のクラスを複数の者が担当する科目については、担当者同士の情報共有、経験交流などを図る検討会などを開き (日本語上達法担当者会、非常勤講師との懇談会など)、教育改善に資している。

3. 学生指導 (履修指導や教育相談, 生活相談, 就職指導など) について

学生指導については、5 名の教員が直接卒研を担当したが、そのなかには「社交不安障害」の学生もあり、卒研指導とともにメンタル面でのサポートも行ってきた。また学生相談委員 5 名中 4 名が AH センター教員であり、学生支援の視点から学生の授業参加、キャンパス生活を見守っており、必要な協議は、学生相談室カンファレンスの場で行っている。さらに教職課程についても AH センター教員 4 名が教育実習等の中核として指導に当たっており、遅刻、無断欠席した学生への指導を行っている。

4. 卒業研究指導について

学科の専門以外のテーマでの卒業研究を希望する学生については、学生の希望により AH センター教員も、卒業研究にあたっている。ちなみに、2011 年度の卒研担当教員は、村木講師、平沼准教授、川地准教授、金田准教授、坂井教授の 5 名である。

5. その他, 特記事項 (学科独自の教育など) など

センター内で、教養教育 (ジェネリック・スキル) やキャリア教育など合同学習会を開催してきた。

また AH センターの地域連携の取り組みとして、寝屋川市との共催等による「市民向け学習

講座」の開催について、寝屋川市（市立中央図書館長ほか）との協議を開始した。

6．添付資料

1. 資料1 「教養教育のあり方についての Memo」
2. 資料2 「総合科目 ガイダンス」寝屋川版・四條畷版

1．教育目標やカリキュラムの位置付け，シラバスについて

本学の英語教育においては実用性のある英語力を養成することを目標とする。英語力不足や英語を苦手とする学生の入学が年々増加傾向にある中、その目標達成に向けて授業が展開できるようリーディング関連、文法関連、コミュニケーション関連の科目を設定している。平成23年度より寝屋川キャンパスにて実施される新カリキュラムにおいて、基礎力不足を補う科目として、1年次に「基礎英語」を配当した。また、1年次の半期選択科目として「英文法セミナー」を前期及び後期に配当した。

2．教育改善や授業点検，成績評価（平均値，成績分布，合格率など）について

新入生を対象に、4月のオリエンテーション時にプレースメント・テストを実施し、そのテスト結果に応じて二つのレベルに分けクラス編成をしている。1年次配当の英語リーディングのクラスでは、レベルに応じた統一教科書を使用している。統一教科書に関しては毎年内容評価を行い、継続使用の可否を検討している。なお、本学では英語を不得手とする学生が多い。彼らの学習意欲向上を図るには丁寧できめ細かな教育を実施できる環境が必要と考える。その一策として、現在の1クラスの上限人数（75名）の改善を図りたい。

3．学生指導（履修指導や教育相談，生活相談，就職指導など）について

入学時のオリエンテーションにて新入生に対し英語学習に関するガイダンスを実施し、本学の英語科目、科目の選択方法、履修方法を含め英語学習の概要について説明した。また、23年度末の3月下旬より開催された2年生、3年生を対象とするweb履修の説明会にて、2年次以降の英語科目の選択方法、履修方法についてガイダンスを実施した。

4．卒業研究指導について

5．その他，特記事項（学科独自の教育など）など

・ラーニング・コモンズの一環として、平成23年度前期は5月初旬より7月初旬まで火曜日（16：30～19：00）及び木曜日（17：00～18：30）に英語を苦手とする学生を主な対象とし学習支援活動を実施した。参加した学生の英語力はいろいろであった。レベルの低い学生には用意したプリントで英文構造の理解に努めさせ、レベルの高い学生には英文読解能力を伸ばす指導をした。

後期にも学生からの声があり、前期と同じ要領で10月初旬より12月中旬まで前期と同じ曜日・時間帯に学習支援活動を実施した。参加していた学生は非常に熱心であったので、それぞれの英語の理解力が多少高まっていると感じ取っていたものと思われる。

・特任講師によるオフィス・アワーとして、寝屋川キャンパスにて主に院生を対象とする月曜日（「英語でキャリア・アップ」）に、および学部生を対象とする水曜日（「日常の英会話」）に各90分（13：00～14：30）のプログラムを提供した。前期には平均して4名程度、後期には2名の学

生が参加した。後期に参加した1名を除き、学生たちはTOEIC受験に備えての支援学習を参加の目的とした。後期参加の1名は海外での学会発表が予定されており、事前準備の支援を受けるため10月3日より11月下旬まで参加した。

・「TOEIC資格支援プログラム」：2011年5月23日Z号館10演習室にて、年内にTOEICを受験する学部生、院生を対象に個別トレーニングを行う旨説明会を実施した。参加学生はE学科2名、J学科4名、H学科1年生1名、P学科3名、Z学科1名、院生2名の計12名である。メディアコミュニケーションセンターよりDS本体、DSソフト（えいご漬け、もっとえいご漬け、もっとTOEIC DS トレーニング）の貸与を受けるとともに、アルクネットアカデミー2を活用した個別コーチングを実施した。TOEICを受験するまで毎週、担当教員（柏原先生）からコーチングを受けるよう義務づけ、進捗度を報告そして課題をこなす作業を繰り返した。その結果、学内で実施されたTOEIC試験において目標としていた500点を超える590点のスコアを獲得する学生もあり、成果があったと思われる。

また1月26日に「TOEIC資格支援プロジェクト」の説明会を行い、前回参加学生の継続指導と、さらに院生1名、P学科1名、E学科1名の追加参加があり、2012年度のTOEICの受験を目指し、個別コーチングを実施している。

・2012年2月の「カナダUBC海外教育研修」に参加する学生のため、2月15日（水曜日）13：00～15：00、2月20日（月曜日）10：30～12：30、2月21日（火曜日）10：30～12：30の3日間、Z号館12演習室において、特任講師による事前英会話実践プログラムを開催した。UBCのELI（English Language Institute）のプログラムを解説したDVDを用いながら、有意義な語学留学が果たせるよう情報提供と実践的な英会話の特訓が行われた。海外研修に参加する学生のうち、15日12名、20日12名、21日14名の参加があり、目的を持って英語を話すという実践的なプログラムを提供できたと考える。

6．添付資料

1．TOEIC Official Certificate（非公開資料）

数理科学研究センター(ASセンター)は理工系の学部・学科において、学部・学科に共通な基礎専門科目のうち、数学科目と物理・力学科目を担当している。数学関係科目としては、基礎解析・演習、基礎微積分1・演習、微分積分1・演習、基礎微積分2・演習、微分積分2・演習、微積分3、多変数の微積分、線形代数1、線形代数2、応用解析、確率・統計がある。また、物理・力学関係科目としては、物理学1・演習、力学1・演習、基礎力学、物理学2、力学2、基礎物理学、物理学・実験、熱学、現代物理学入門、医用物理学である。

このうち、数学関係科目は学部・学科によらないほぼ統一的な科目配置を行っているが、物理関係科目は学部・学科の特色に応じた科目配置になっている。これは、理工系の学部・学科に共通な基礎数学の習得を目指していることと、専門科目とのつながりを考慮した物理・力学の学習を目指していることによる。

これらの科目群は、本来的には、工学部・情報通信工学部などの工学系学部の共通科目として設置されている科目であるが、四條畷の学部・学科に対しても医療福祉工学科、スポーツ健康科学科の要望により上記科目の内その一部を提供している。

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け、シラバスについて

2011年度から寝屋川キャンパスにおいては新カリキュラムが実施され、1年生には新カリキュラムによる科目、2年生以上には旧カリキュラムによる科目が開講された。

A. 数学関係科目

本学数学教育科目における第1の目的は、専門科目を修得するために必要な数学的表現を理解し定理や公式を運用出来るようにすることである。特に理工系の学生が学ぶべき数学の基礎的事項である微分積分学や線形代数学は、完成度の高い整備されたものであるから、これらを習得させることは、各学科の専門における物理学および工学系科目の履修・修得に供することにつながり、重要な目標となる。さらに、2年次で開講している「応用解析」「確率・統計」などはより直接的に専門科目と関わっていることは言うまでもない。

第2の目的は、数学教員免許取得希望者や卒業研究において数学を希望する学生、あるいはより高度な数学を必要とする大学院進学希望者に対し、それぞれの目的に応じて数学の諸分野の知識を身に付けさせることである。

第3の目的は、間接的なものであるが、数学が本来的にもっている論理的整合性や合理性に慣れ親しませることである。このことは、単に手段としての数学知識を習得するためだけでなく、数学的なものの考え方を身に付けることにより、広くこの世界を理解し、社会生活を送るための重要な糧につながる。

上記の目標に従い、初年次生に提供される微積分関係科目(基礎解析・演習、基礎微積分1・演習、微分積分1・演習、基礎微積分2・演習、微分積分2・演習)と線形代数関係科目(線形代数1、線形代数2)を特に重要度の高い科目と位置づけている。すなわち、従来のようにいきなり微積分から始めるのではなく、入学してくる学生に応じて、三角関数や指数・対数関数の理解を十分に行ってから微積分の修得を目指すシステムを取り入れている(基礎解析・演習)。さら

に、基礎微積分1・演習、微分積分1・演習においても上記基本関数の復習を行ってから、関数の極限計算、導関数の計算へと進む。また、基礎微積分2・演習、微分積分2・演習では、1変数の微積分を復習しながら多変数の微積分に入ることになっている。（注：後述するように、2011年度から新しく基礎微積分1・演習と基礎微積分2・演習を配置した。）

また、線形代数においては、いきなり概念的な項目から始めるのではなく、線形代数1では（行列の基本変形や行列式の計算など）計算方法の習得をメインにしたシラバスになっている。これにより、線形代数の基本的な目標である線形変換や固有値・固有ベクトル・行列の対角化（線形代数2）の習得にスムーズに入れるよう工夫している。

B．物理・力学関係科目

力学・物理学関連の基礎専門科目の目標は、物理学の基礎について正確な知識を授け、日常の現象に対して物理学的な見方を養い、関連する専門科目の学習への意欲と能力を育てることである。近年、ますます顕著になってきている新入生の学力レベルの格差への対策として、「力学」「物理学」において導入されている習熟度別クラスによる講義・演習は2011年度で1年目を迎えている。この間、学力レベルに格差のある学生に対する教育の実践に努め、ある程度の教育効果を得ることができた。現在のカリキュラムは2011年度から新たに導入され、その考え方の基本は既に2006年度から導入した旧カリキュラムから実施しているものである。今回のカリキュラム改訂ではさらに学生の現状に対処できるように改善を行った。2011年度は新カリの1年目にあたり、2年次以降は旧カリによる実施である。2011年度からの新カリキュラムの特徴は、これを学科の特徴を生かしたコースを設定し、学生が基礎専門科目から専門科目にスムーズに学ぶことができるように工夫されていること、さらに2年次前期に進んだ内容（アドバンスト）の講義を用意している。例えば、「現代物理学入門」は、古典物理学の範囲に限られていた基礎専門科目において、現代物理学（量子論・相対論）は最先端科学の基礎であり、工学部在学中にどこかの講義で扱うべき項目であるという考えに基づいて2006年度から導入されている。学科再編に伴い、開講科目は以下の表の通りである。

表 2011年度カリキュラム(1年次新カリ・2年次旧カリにて実施)

学科	1年前期	1年後期	2年前期(後期)
EF	物理学1・演習 [2コマ連続]	物理学2 物理学・実験	EG現代物理学入門
JH	力学1・演習 [2コマ連続] 物理学・実験	力学2 基礎物理学	J熱学
UN	物理学1・演習 [2コマ連続]	物理学2 物理学・実験	N熱学 (N現代物理学入門)
P	基礎力学	基礎物理学	
L	力学1・演習 [2コマ連続]	力学2, 基礎物理学	医用物理学
S	力学1・演習 [2コマ連続]	基礎物理学	

印は習熟度別クラス編成科目

「物理学・実験」

「物理学・実験」は、物理現象との接触を通して原理の理解を深めながら、工学諸分野を専攻するのに不可欠な基本的実験操作や測定値処理法の習得を目的としており、工学部(EUHJN)および情報通信工学部の通信工学科(F)では必修科目である。また、誰が読んでもわかるレポートの作成も重要な課題の一つである。

物理学・実験では、力学、物性、熱学、光学に関する実験課題が10テーマ以上用意されていて、学科にあわせて、この中から8テーマを課している。授業時間の最初の3~4週は座学に当て、誤差論の講義や、基本的測定器の使用法、グラフの書き方の実習をしている。レポートは毎回全員が提出することを義務づけているが、文章を書くことを苦手とする学生が増加したことにより提出しない学生がいる。そこで、レポートの書き方の指導を徹底するために、実際に実験が始まってからの3テーマはレポート指導日をその実験テーマの次週に配置している。これにより、レポートの不提出による単位の不認定が大幅に減少した。

「習熟度別クラス編成」

習熟度別クラスは、2006年度のカリキュラム改訂を機に導入され、2011年度もこれを継承して実施した。習熟度の判定は、入学時の新入生全員を対象にした「数学プレースメント・テスト」の結果と、高等学校における物理学の履修状況アンケートに基づいている。クラスは初歩クラス、基礎クラス、標準クラスに分けている。物理学の問題による「プレースメント・テスト」が実施できれば合理的であるが、現状での新入生の状況を考えると物理を高校で履修していない学生が半分程度の学科もあり、「物理学プレースメント・テスト」を実施することによる効果は期待できない。しかしながら、「数学プレースメント・テスト」+「高等学校における物理履修状況アンケート」による習熟度別クラス分けは、現時点まで順調に機能してきた。また、2008年度に新設された医療福祉工学部健康スポーツ科学科(S)の初年度はL学科と合併でクラス分けをしていたが、2009年度以降ではL、Sの学科別のクラスに変更して開講している。

2. 教育改善や授業点検、成績評価(平均値、成績分布、合格率など)について

A. 数学関係科目

現在、入学してくる学生の基礎学力の不足と多様化が問題になっている。最近の指導要領の改訂により益々この傾向が強くなっている。このことは本学に限らず全国的な現象として知られているところである。この問題に対応するため、当センターにおいても2000年度から基礎教育の重点化、習熟度別授業に取り組んできた。数学においては、微積関係科目と線形代数の科目を1年次の重要科目ととらえ、特に多くの学生が苦手とする解析関係科目についてコース制を導入した。従来からの微積分関係科目に加え、新たに基礎解析・演習を1年次の前期に設け後期から微積分の科目を修得するコースを新たに設けた。これにより、高校生の段階で、特に指数・対数関数や三角関数の理解や運用が不十分な学生に対応できることになった。

さらに2011年度からは、新カリキュラムの施行に伴い新しく基礎微積分1・演習、基礎微積分2・演習が開講され、初年次学生に対してよりきめ細かく対応することが出来るようになった。

これらの科目は、それぞれ微分積分1・演習、微分積分2・演習と同様の内容であるが、よりテーマを絞り、取り扱う関数も出来るだけ単純なものに限ったシラバスになっている。また、教科書もこれに対応出来るよう改訂を行った。

4月はじめに行うプレイメントテストによって、いくつかの学科をグループとしてクラス分けを行い、上記の基礎解析・演習からスタートするクラス、微分積分1・演習からスタートするクラス、微分積分1・演習からスタートするクラスの3コースが平行して走るようになった。(資料：2011年度クラス分け結果(数学))

複数学科を3~4のクラスに分けて、学生の習熟度に応じて基礎解析・演習クラスと基礎微積分1・演習クラス、微分積分1・演習クラスの3クラスが平行に置かれている。各クラスの教授陣は連絡を密にして、授業の進度、講義や演習の工夫などの情報交換を行っている。さらに、クラスによる不公平感がないよう合格率に大きな差が生じないように努めている。2011年度における、1年次前期科目の基礎解析・演習や基礎微積分1・演習、微積分1・演習の合格率はおよそ80%~85%、線形代数1の合格率も同様な数値になっている。1年次後期科目については、授業内容が難しくなることと受講生の授業への取り組む姿勢に差異がみとめられ、合格率は(前期と比較して)若干低くなる。この点については、受講生のモチベーションを常に持たせるよう授業における更なる工夫を心掛けねばならない。

さらに1年次の後期には基礎解析・演習および線形代数1の再履修クラスを設けて初年次生に手厚く対応している。この再履修クラスにおいてはテーマを絞り、演習をより多く取り入れて学生の達成感を重視している。また、少人数クラスの特典を活かして出来る限り個別対応に努めている。一方、たとえば前期の微分積分1・演習が不合格となった学生は後期に基礎微積分1・演習を履修し直すことができるなど手厚い対応になっている。

数学関係科目の教授陣は23名であるが、このうち非常勤講師が約14名である。日常的には電子メールで情報交換を行い、特に習得の難しい学生への対応などについて意見交換している。また、学期末には全員が集まり当該年度の授業の問題点や、翌年度の授業について議論し、さらに評価の統一性も図っている。

B. 物理・力学関係科目

(1) 習熟度別クラスによる「力学1・演習」「物理学1・演習」

機械系学科(HJ)の「力学1・演習」(標準クラス)では、高校時代に物理学をある程度学んできている学生が多いため、従来のスタイルで講義を行うことが可能であった。しかし、「円運動」や「単振動」の理解は、標準クラスの学生においても困難で、ほとんどのクラスでは「単振動」は後期の「基礎物理学」に委ねている。さらに、「力学1・演習」(初歩クラス)では、物理を学ぶ以前に、数学的な取り扱いができない学生が急増していることが目立っている。文字式の扱い、1次方程式、連立方程式、関数とグラフ(1次関数、2次関数)など、質点の運動を理解するために必要な数学的な知識を復習しながら進めていかねばならない状況である。電気・通信系学科(EF)では、「物理学1・演習」(力学)、「物理学2」(振動・波動)は力学と同じレベルを保ちつつ振動・波動も演習を行い、この習熟度を高められるように開講している。力学・物理学関連の全時間数を減らして学生の負担を軽減するとともに、専門分野で必要になる基礎的な内容に重点を置いて教授することが狙いである。しかし、振動・波動の理解は容易ではなく、効果的な

教授法の模索が続けられている。さらに2011年度は環境科学科(U)の新設に伴い、サイエンス系学科(UN)に対して「物理学1演習」(力学)、「物理学2」(振動・波動)のコースを新設して開講した。理科教職を志望する学生が多く受講するため講義内容とそのレベルを考慮した実施が要望される場所であるが、現時点では習熟度別クラス分けの運用によって、受講学生の要望に対応できているように思われる。

このように習熟度別によるクラス編成では、クラス内の学力レベルの格差が抑えられているので、少なくとも学生の状況に合わせた授業運営が可能であり、授業に対する学生の満足度を高めるとともに、講義を進めやすい環境を教員側に提供して精神的な負担を軽減させていると評価している。期末試験を受験した80%近くの学生が単位を取得できているようであり、「高校1年の数学」がある程度マスターできていれば、2コマ連続の授業でゆっくりと演習を進める現在の授業で、力学の基礎を習得することは可能なようである。しかしながら、受講した学生の授業に対する理解度の現状から判断すると、進級するごとに学力レベルの格差が拡大していくことはやはり避けられないと思われる。また新入生の学力格差が増大したり、理科教職を志望する学生が増加する状況がさらに進むようであれば、学生の理解度に合わせた、きめ細やかなフォローが必要である。TAを効果的に活用した演習科目を充実させるなど、幅広く柔軟な教育システムのもと、多様な教育観を持って質の向上を図ることが望まれる。

(2) 「物理学・実験」

「物理学・実験」については、2006年度から、工学部各学科の定員が10～20名減少した関係で、定員の大きい学科も2クラスに分けず1クラスで指導する体制に変更した。指導する教員の数も学科の定員に合わせて減らし、5名ないし3名休制にした。この年は、実験は終了したがレポートを出さない学生が急増した年でもあった。このため、レポートをより書きやすくする必要に迫られ、実施する実験テーマを代えたり、実験指導書の全面書き換えを行った。2006年度は最初の1テーマだけ実験日の翌週をレポート指導日に当て、さらに、最後の実験日を実験予備日としてレポート未提出者の救済に当てた。レポート指導日の有効性が認められることから、2007年度はレポート指導日を最初の3回の実験テーマについて実施することにした。(1)レポートに対する負担の軽減とレポート指導の徹底、(2)これまで、他の講義時間中に実験レポートを書く学生が多くて授業に差し障りがあるという批判があったが、これらに答えるものであることが期待された。さらにもう一歩進めて、2011年度は、全テーマについて指導日をもうけることにした。各人が履修するテーマ数に関しては、2007年度は8テーマ、2009年度から5～6テーマになったが、レポート指導の充実、測定器の実習、グラフの書き方など特別な時間を設け十分時間をかけて指導することができるようになった。

(3) 再履修クラス

教員及び受講する学生の努力にもかかわらず、合格ラインに達しない学生が出ることはやむを得ないと思われる。高校時代に物理学をほとんど学んだことのない学生にとって、繰り返し時間をかけて勉強することは必要であろう。すなわち、1年次前期に開講されており、基幹科目でもある「力学1・演習」「物理学1・演習」においては、1年次後期に「(再)力学1・演習」「(再)物理学1・演習」を配置し、セメスター制の完全実施によって、前期に単位が取得できなかった学

生でも後期の再履修クラスに履修登録をして再度学習できるようにした。2011年度も同様な意図で再履修クラスが開講されている。再履修クラスを充実させることで、学生が何度でも再履修することができる環境を整え、合格ラインを下げることなく教育できることを目指している。

3. 学生指導（履修指導や教育相談、生活相談、就職指導など）について

1年次前期に「基礎解析・演習」「基礎微積分1・演習」「微積分1・演習」や「力学1・演習」「物理学1・演習」において、単位取得ができなかった学生に対して、1年次後期に適切なクラスに履修登録を変更して再履修するよう指導している。各学科のグループ担任が対象となる学生に対して1年次前期の成績配布時に適切な指導が行えるように、ASセンターでは主任会や教授会で喚起するとともに全教員にメールで資料を配布した。

2011年度から新カリキュラムが導入されたこともあり、数学や物理の基礎専門科目への履修登録者数が少ない学科も見受けられた。新しく導入されたキャップ制との関係も考慮し、1年次学生には基礎専門科目を履修するよう、各学科のグループ担任を通じて指導を行なっている。

A. 数学関係科目

以前に行っていたオフィスアワーは、実効性が見いだせなかったもので、今のところ行っていない。数学教員の多くは寝屋川学舎R号館1階に研究室をもっているため、質問等はそこに行くよう（授業担当者以外に質問してもよい）学生に周知している。また、教員は時間の許す限り学生の質問に応じるよう、お互いに申し合わせている。実際に、ほぼ毎日どこかの研究室で学生が質問している光景が見られている。

別に、毎週月曜と火曜に開かれているコラボカフェをアナウンスして、教員に質問しにくいときは、これを利用するよう促している。

B. 物理・力学関係科目

特になし。

4. 卒業研究指導について

基礎理工学科の卒研指導が行われるようになったので、ASセンターとしての卒研はそちらに組み込まれることになった。詳細は基礎理工学科の該当する項を参照されたい。

5. その他、特記事項（学科独自の教育など）など

学部・学科に共通な基礎専門科目を担当する側からいくつかの問題点を指摘しておきたい。1つは、工学系の学生が身に付けておくべきミニマムスタンダードを統一的に教授するためにさまざまな工夫を行っているが、この数年は各学科の独自性が優先されつつあり、たとえば線形代数1を配置しながらそれにつづく線形代数2は配置されないなど当センターの意図が十分に活かされないカリキュラムが見受けられる（資料：AS数学科目フォローチャート参照）。また、3.学

生指導の項目において述べたように、修得が困難な学生に対するケアを各学科のグループ担任を通じて行っているが、学部・学科による温度差が見受けられる。学部・学科の共通基礎専門科目に対する全学的な位置づけ，制度化が望まれる。

6．添付資料

1. 資料1：2011年度クラス分け結果（数学）.xls
2. 資料2：2011AS 数学科目フォローチャート.xls（新カリキュラム，2年次生向け科目は2012年度から）

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け, シラバスについて

平成21年度に「電子工学科」から「電気電子工学科」へ名称変更したことに伴い、世の中で重要なキーワードとなっている環境・エネルギーの分野を考慮して、省エネに貢献する電気系技術の講義や実験・演習を新設・改訂した。新入生のこれらの科目に対する期待は我々教員の想像をはるかに凌ぐものがある。また、2,3年生配当科目では、企業から講師を招いて企業連携講座を開設しているが、これも入学生募集に大きな効果を挙げている。本年度は、これらの新設科目のうち「電気法規と施設管理」を残して、新設した科目全てを開講した。ほとんどの科目で、期待に違わぬ受講生数があり、企業連携講座受講を将来の活躍分野を考えることや卒業研究に向けた興味付けに大いに役立ててほしいと期待している。教育点検という点では、次年度末の就職状況・就職先業種などの面からの分析も必要である。

2. 教育改善や授業点検, 成績評価 (平均値, 成績分布, 合格率など) について

近年開講科目の見直し・整理が進む中で、講義の内容や難易度が科目により大きく異なる傾向がさらに強まっている。従って、出席を取る、毎回宿題を課して自宅学習を促す、模範解答を配らずに考え方・やり方の解説を徹底する、など科目ごとに教員が多彩な工夫を凝らしている。他方学生から見ると、宿題の有無などそれぞれの講義への対応が講義ごとに異なり、成績評価方法も異なっているため、まごつくことが多いようである。シラバスに成績評価方法を文章で記載するだけでなく、初回の授業でその講義を受講するために必要な心構えや、教員が受講生に求める事項を改めて口頭で伝えることに十分な時間を割くガイダンスの必要性が増している。

初年次教育科目は学科専門科目の入口であり、これらの科目の単位取得状況が後の離学につながる場合があるので、これに関連して2つの対策を講じている。授業クラスを正規生と再履修生に分けたクラス編成とTA主導・教員補助のオフィスアワーによる学習支援である。成績という観点での分析が必要であるが、受講状況からは一定の効果は見られる。

授業アンケート結果を講義へ反映させる手法について：前項に記したように、理解の難易度が講義により大きく異なるため、受講生からの要望も講義ごとに大きく異なる。従って、アンケート結果は講義毎に担当教員が個別対応しており、学科全体で共通の対処は今のところ行っていない。また、授業改善プランを学生にweb提示するという活動も、まだ一部ではあるが、実施している。正式なアンケート形式では、率直な感想や意見をストレートに述べられない受講生が多く、むしろ全員が集まる学科入門科目などの終了時に、複数の学生が(別の科目に関する)意見を口頭で訴えてくる事がある。高年次になるにつれ授業アンケートでの自由意見記述が少ないという状況もみられ、学生の本音をどのように吸い上げるか、その手法については一層の工夫が必要であろう。

3. 学生指導 (履修指導や教育相談, 生活相談, 就職指導など) について

学生指導では、新1年生に対する指導、3・4年生に対する就職指導が重点項目である。

新1年生の指導について：学生自身の時間割を決める履修登録は新入生にとって学生生活の最初

の躓きとなる場合がある。これまで学科オリエンテーションでのグループ担任との面談の際に教員が適宜説明している状況であったが、自己の履修登録について不安を感じている学生もいるようである。次年度は学科で履修ガイド説明資料を作成、グループ担任との面談の際に新1年生全員が同じ説明を受けられるようにし、不安緩和を図ることとした。勉学状況については、学科基幹科目である基礎電磁気学・演習、電気数学・演習や基礎電気回路への出席状況・小テストの成績は定期的に全教員に公開し、情報共有している。欠席学生・成績不振学生について、キャリア入門の時間を活用して早期に指導しており、一定の効果を挙げていると考えている。学科行事などの案内やキャリア支援講座などへの勧誘も全員が集まる科目授業で口頭で話をしており、積極的な大学生活を送るよう指導することは出来ていると考えている。

3・4年生の指導について：学科では、4年次進級までに取得すべき要件科目が8科目設定されている。新3年生ガイダンスで説明はするものの、毎年数名がこの要件で進級できない事態が起きている。科目担当教員、グループ担任やプレゼミ担当教員できめ細かくフォローしていく必要がある。就職支援については、3年後期のプレゼミから継続して力を入れている。学科として就職活動の心得講義、就職状況の開示や全国共通のweb模試などを学科内合同プレゼミで実施するとともに、ゼミ研究室毎に就職に向けた指導を実施し、引き続き卒業研究室で指導している。しかし、就職状況の悪化ともあいまって必ずしも結果につながっていない。就職部と連携して改善を図っていききたい。

4．卒業研究指導について

卒業研究配属先が卒業研究への取り組み度に影響を与えないとはいえない。しかし、学科のリソース・運営から全ての学生の希望を満たすことは出来ない。このため、H22年度から、2段階希望調査方式を継続している。1回目調査を仮希望調査とし、この結果を学生に開示して、学生が自主的に希望先を変更して特定の研究室に過度に希望が集中しないよう対策をとった。希望の集中は十分には解消されてはならず、希望順位の低位に配属された学生も数名いるのが実情であるが、感情的には学生の不満は減っているようである。卒業研究の指導方法については、担当教員それぞれによって取り組み方は異なっている。基本的には、学生一人一人の個性を活かすことを念頭に置き、研究課題の決定には本人と直接面談して本人の適正や能力に応じて決定するケースが多い。就職活動で公欠となる場合もあるが、週1回のゼミ発表会を行い、全員が質問やコメントなどを行うように指導して、仲間との協調性を養い、自らの成長を自覚させる指導を心がけている。多くの研究室では年度の途中で中間発表会を開催し、かなりの時間をかけて集中して発表資料を準備させる。これは大きな仕事を計画性をもって実行する練習となり、大きな効果を生んでいる。うまく発表できたことで、学生は自信をもち、「仕事のやりがい」について考えるよい機会にもなっている。

5．その他、特記事項（学科独自の教育など）など

学科では、積極的に学修する学生に対する側面的施策として、半期毎の成績発表時に科目別成績優秀者を掲示により開示している。これは励みになっているようであり、表彰などさらに一歩進めた対応も必要であろう。また、第1項でも述べたが、学科教育の特徴として企業連携講座があり、積極的に学修する学生の後押しやより専門的な科目履修への動機付けに大きく寄与するも

のと期待している。

6．添付資料　：なし。

1．教育目標やカリキュラムの位置付け、シラバスについて

2011年度は学科再編に伴い応用化学科の募集を停止しており、新入生は不在であった。しかし、応用化学科と環境技術学科が拡大統合した環境科学科が新設され、これまでの応用化学科の教育カリキュラムは新学科に引き継がれ実施されている。

現応用化学科では、化学系学科としての教育目標を明確にするため、化学系科目を充実させた新カリキュラムを2009年度よりスタートさせ、2011年度は3年目を迎えた。新たに設けられた3年配当科目、化学と産業、及び化学と英語、材料系科目として、ナノ化学、超分子化学、及び錯体化学、生命科学系科目として、生体機能化学、及び食品化学を実施した。さらに、3年次前期・後期に応用化学実験1・2・3・4を実施し、テーマを新設するなどして化学実験技術の修得を充実させた。この新設したテーマは、将来環境科学科の実験科目にも生かせるように慎重に選ばれた。

2．教育改善や授業点検、成績評価について

カリキュラム変更により教育目標を明確にし、教育改善を図っている。高分子化学1、生化学1について、週2回開講を実施し、教育効果を高めた。また、1年配当の学科基幹科目は、学科再編のためそのままでは応用化学科では開講されないため、再履修科目を開講し、学生の基幹科目履修をし易くした。Moodleを利用したe-ラーニングを、今年度も引き続き一部科目で実施し、講義内容の到達度確認や学生自身の成長の確認に役立てている。

応用化学科教員の授業アンケート実施率は大学平均よりも高く、各教員は授業点検に努力している。また、学生からの改善要望に対しても真摯に対応している。昨年と同様に、各教員は成績評価方法を授業開始時に学生に説明し、シラバスにも明示している。

3．学生指導（履修指導や教育相談、生活相談、就職指導など）について

年度初めの履修登録前に、各学年学生への履修ガイダンスを充分に実施しており、その意味での履修指導に関する問題点は認められない。また、Web履修になってから履修できる科目が判り易くなり、新・旧カリキュラム間の代替科目の混乱や履修登録の失敗が減少した。

学生生活も落ち着いており、期末試験平均点の上昇など勉学意欲の高まりを感じた。

3年生のプレゼミナールでは、卒業研究仮配属決定を例年より1週間早く行い、就職活動時期の長期化による卒業研究への影響をいくらか抑えた。また、毎月マイナビ模擬試験を実施し、キャリア意識を高めることができた。その結果、就職活動の開始時期がこれまでの学年より早くなった。

4．卒業研究指導について

各研究室で、週2回のゼミナールを実施するなど、各自のテーマにそって卒業研究を実施している。応用化学科では、卒業研究の進捗状況を教員各自が点検し今後の研究計画を修正するために、夏季休暇の前後に数研究室が合同で中間報告会を実施している。就職活動時期の長期化に伴い、卒業研究に費やせる時間が制限されるようであるが、教員の努力もあり、卒業研究の満足度

は昨年と比べて大幅に上昇した。昨年に比べて就職率が上昇したことが、卒業研究の満足度上昇に利いていると思われる。

5．その他、特記事項など

資格取得支援のために、通常の授業以外に公害防止管理者・第三種電気主任技術者（電験三種）の支援講座を数名の教員がボランティアで開講している。公害防止管理者については、応用化学科の学生受講者28名、5月～9月の期間で31回の講義を実施し、科目合格者11名となった。残念ながら全科目合格者（資格取得者）はいなかったが、新年度の指導を開始しており、資格取得者が出ることを期待している。電験三種については、応用化学科だけでなく他学科の教員、学生も参加して実施された。応用化学科からは3名が参加し、1年間に141回の講義を実施した。応用化学科からは残念ながら今年度は合格者が出なかったが、他学科の学生について5名科目合格、1名資格取得という結果になったそうである。今後は応用化学科からも合格者が出ることを期待している。

6．添付資料

特になし。

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け, シラバスについて

電子機械工学科では, 電気・電子と機械を融合した技術分野(メカトロニクス)のエンジニアを育成することを目標としている。メカトロニクスの主要素である「機械」「電気・電子」「計測・制御」「情報・コンピュータ」の4分野をバランスよく学び, ハードウェアとソフトウェアの両面から広い工学的視野を持った技術者を育成することを目指している。シラバスに関しては授業内容15回分を具体的に記述し, 準備学習や評価方法も明記している。

2. 教育改善や授業点検, 成績評価(平均値, 成績分布, 合格率など)について

授業に関しては, 学生に対する授業アンケートを行い, 授業点検や改善に努めている。授業における学生の理解度の把握や授業の復習のために, テストや演習を増やしている。工学の基礎となる数学, 力学, 物理などを学ぶ「基礎工学」を導入し, 高学年での専門科目へスムーズに移行できるように, 教育改善に努めている。成績評価に関しては, 期末のテストのみではなく, 複数回の中間テストや演習などで総合的に評価を行っている。

3. 学生指導(履修指導や教育相談, 生活相談, 就職指導など)について

各教員は, 3年までの各学年10名程度の学生をグループ担任として受け持ち, 教育相談, 生活相談, 年2回の成績配布時の履修指導を行なって, 学生の成長を見守っている。また, 1年における「キャリア入門」においては, グループ担任は担当学生の基礎学力向上を図るとともに, 意思の疎通をはかっている。就職指導に関しては, 3年後期から各研究室に所属するため, プレゼミナールおよび卒業研究を通じて, 卒研指導教員が個別に行っている。

4. 卒業研究指導について

3年生は後期から各卒研室に配属となり, 早くから卒業研究に接することにより教育・研究に対する動機付けを行っている。また, 卒研生は1年間の成果を卒業研究発表会で口頭発表するとともに卒業論文としてまとめることが義務付けされている。

5. その他, 特記事項(学科独自の教育など)など

演習・実験科目において, 図面やレポートのチェックを厳しく行ない, 再提出させることにより理解が深まるように努めている。

6. 添付資料

無し

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け，シラバスについて

基礎力の充実を図る目的で、下記に示すように、学科の基幹科目には講義に対応した演習科目を設け、学生自らが課題に取り組み、理解度を上げることを目指している。また、他の科目でも小テストや演習を多く取り入れ、評価を行っている。シラバスでは目標を明確にしている。

講義	演習	講義	演習
工業力学および演習1（講義+演習） 2クラスに分け少人数教育としている		工業力学および演習2（講義+演習）	
材料力学1	材料力学1演習	材料力学2	材料力学2演習
熱工学1	熱工学演習	流体力学1	流体力学演習
機械力学1	機械力学演習	機械運動学1	機械運動学演習
制御工学1	制御工学演習	機械要素設計1, 2	機械要素設計演習
CAD製図（2次元） 2クラスに分けて教育	CAD実習（3次元） 2クラスに分けて教育	機械設計製図演習（講義+演習） 2クラスに分けて教育	

2. 教育改善や授業点検，成績評価（平均値，成績分布，合格率など）について

各教員が学生に理解しやすい授業を心掛けている。小試験やレポートを課す科目も多い。合格率にはとらわれず、理解できていると思われれば合格とする科目では合格率が低く、受講生が多くなるが、複数年の受講によって、理解度は飛躍的に高くなるのが点数に表れている。科目によっては、再評価試験を行い、学生にやり直しの機会を与えるとともに、内容の理解を深めさせるようにしている。

3. 学生指導（履修指導や教育相談，生活相談，就職指導など）について

各学年ともグループ担任制度を設け、個別に綿密な履修指導、生活指導を行っている。1年次生には5月に新入生歓迎会を行い、履修指導、生活指導を行うとともに、キャリア入門の中に基礎ゼミナールを設け、数学、物理の基礎学力の向上を図っている。2年次生のキャリア授業、3年次生のプレインターンシップゼミナールでは、本学科の卒業生に大学、企業での経験を話してもらい、就職指導を行っている。

4. 卒業研究指導について

教員間の負担を同じにするために、各研究室間の卒研生数には定員を設けているが、学生の希望を最大限配慮し、研究室への配属を行い、個別に丁寧な研究指導および就職指導を行っている。

5. その他，特記事項（学科独自の教育など）など

1) 機械設計技術者3級試験の合格支援に学科の全教員が取り組んでいる（3年次生以上）。今年度は26名が受験、合格率は46%であり、全国平均の33%を上回っている。

2) 大企業で最も多く利用されている3次元CADシステム(CATIA)を用いて、充実した3次元CAD教育を行い、CAD利用技術者試験の合格支援を行っている。今年度は2級に58名が受験、合格率は64%であり、全国平均の46%を上回っている。1級も2名合格している。

1．教育目標やカリキュラムの位置付け，シラバスについて

機械工学・電気工学の知識を基礎として，環境問題に取組み解決できる能力を有する技術者養成を目標にしている。環境・機械・電気の分野の知識を習得し，幅広い工学知識を持ち，問題解決能力を持つことができるように配慮している。

2．教育改善や授業点検，成績評価（平均値，成績分布，合格率など）について

授業アンケートや授業時に随時行う演習問題の結果などを参考にして，学生の理解度をチェックし，授業点検を行い授業改善に努めている。成績評価は期末試験以外に，上記の演習問題の結果や，出席状況，授業への取り組み姿勢なども考慮して行っている。

3．学生指導（履修指導や教育相談，生活相談，就職指導など）について

学生からのあらゆる相談について，クラス担任の教官が日時を問わず対応することになっている。また，必須科目の出席状況を確認し，問題がある学生についてはクラス担任から出席を促すなどの対応を行っている。定期的には，前後期の成績配布時に，履修指導や教育相談を行っている。これらの活動の結果，必要に応じて学生相談室アドバイザーに相談し，学科会議にフィードバックし対応している。

4．卒業研究指導について

上記した教育目標で，3年次までが「幅広い工学知識を持つ」ことが目標とすれば，卒業研究は「問題解決能力を持つ」ことが目標となると理解している。このため，3年次後期に担当される「プレゼミナール」で少人数グループに分け，卒研担当教員が研究内容および卒研テーマを説明し，卒業研究を行うための基礎教育を行い，4年次において迅速に卒業研究に着手できることを目指している。そして，4年次の実際の卒業研究においては，各学生に能力に応じきめ細かな指導を心掛けている。

5．その他，特記事項（学科独自の教育など）など

演習・実験科目に対しては，レポートを厳しくチェックし，内容を良く理解し書くよう指示している。

また，環境に関連する各種資格（環境社会検定試験（エコ検定），気象予報士，CAD利用技術者試験，エネルギー管理士など）を修得できるよう支援し，ゼミナールなどを実施している。

6．添付資料

なし。

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け，シラバスについて

人類が直面している様々な地球上の環境問題を正しく理解し，解決していくためには多くの取り組み方がある。環境科学科は，これらの取り組み方の中から，人類に悪影響を及ぼさない新物質を創り出し人類の生活をより豊かなものにしていくための化学技術，または様々なエネルギーをより利用可能なエネルギーに効率よく変換するための技術やこれらのエネルギーを無駄なく貯蔵するための技術，さらにはエネルギー消費を削減するための省エネルギー技術などの機械系技術を教授することにより，優れた環境意識を有する人材，すなわち，機械系素養を有する化学技術者または化学系素養を有する機械系技術者を育成することを目的としている。このように環境科学科の教育分野は化学系及び機械系分野の二つからなっているため，低学年では化学系と機械系の基礎科目を幅広く修得させ，高学年で学生の興味と適性に応じてコースを選択させるシステムを取り入れている。そのためにも，1年次において少人数から構成される教育プログラムを準備し，きめ細かく各人の適性を判断できるよう試みている。

環境科学科では，3つのコース（エコ化学コース・バイオ化学コース・エネルギー機械コース）を設置し，2年次後期より学生の興味と適性に応じていずれかのコースを選択できるようにしている。コース分けまでは，化学系科目と機械系科目を共通科目として配当し，両系列の科目を修得することにより，学生の興味と適性を自らが判断できるようにしている。各コースの主たる人材育成目標は以下のとおりである。

エコ化学コース：環境問題を化学の観点から理解し，化学物質の環境への負荷や安全性等に配慮出来る幅広い視野を持って，化学物質の創製と物性の制御ができる人材を育成する。

バイオ化学コース：生化学を基礎とし，バイオマテリアルの開発やバイオマスエネルギーの有効利用，さらに化学物質の生体への影響の分析評価により医療・食品への応用技術を身に付け，かつ生態系環境への影響などを考察できる人材を育成する。

エネルギー機械コース：エネルギー変換，エネルギー貯蔵，省エネルギー技術などの環境技術を修得し，機械工学分野の知識と様々なエネルギー資源の特性に関する化学工学分野の知識を有する人材を育成する。

2. 教育改善や授業点検，成績評価（平均値，成績分布，合格率など）について

環境科学科教員の授業アンケート実施率は大学平均よりも高く，各教員は授業点検に努力している。また，学生からの改善要望に対しても真摯に対応している。化学系志望学生と機械系志望学生の各教科に対する姿勢に若干の相違がみられる傾向が有るため，今後の授業改善を図らねばならない場合がありそうである。各教員は成績評価方法を授業開始時に学生に説明し，シラバスにも明示しているので，成績に対する疑義はこれまで寄せられたことはない。Moodleを利用したe-ラーニングを一部科目に導入し，講義内容の到達度確認や学生自身の成長の確認に役立てている。

3．学生指導（履修指導や教育相談，生活相談，就職指導など）について

年度初めの履修登録前に，各学生への履修ガイダンスを充分に実施しており，特に履修指導に関して問題点は認められなかった。しかしながら，2011年度から導入された履修制限制度の為に将来の進路選択の判断手段となるべき教科を履修しない学生が見られた。今後の履修登録指導には注意を要する。前身の応用化学科より実施している学外教育研修を環境科学科でも実施した。2011年度は研修方法・場所を変更した。1日目の午前に発電所，午後に化学系工場の見学を取り入れ，夕刻から翌日の午後までは寝屋川市野外教育センターにて合宿研修及び新入生歓迎会を実施した。新入生の大学生活への適応をスムーズに行ない，かつ新入生間の親睦を促進する効果は顕著である。さらに，大学院生や卒研生も多数参加し，新入生との親睦をはかるとともに，新入生への種々のアドバイスをこなしてくれている。

4．卒業研究指導について

環境科学科としては卒業研究を実施していない。3年次後期からのプレゼミナール開始からの指導となる。

5．その他，特記事項（学科独自の教育など）など

資格取得支援のために，通常の授業以外に公害防止管理者・第三種電気主任技術者・エネルギー管理士・気象予報士・環境社会検定・CAD利用技術者等の支援講座を数名の教員がボランティアで開講している。これら支援講座の開講数は他学科に誇れることである。2011年度も多くの受講学生が資格取得だけでなく，科目合格を果たしている。継続して受講することにより資格取得が可能となることを期待している。その他，高大連携授業・出張授業・オープンキャンパス・テクノフェア・中学生サマーセミナー等に積極的に協力し大学広報に寄与している。

6．添付資料

特になし。

1．教育目標やカリキュラムの位置付け，シラバスについて

情報工学科の教育目標は以下の通りである：

「情報」は、「物質」や「エネルギー」と同じく、現代社会の中で大変重要な役割を果たしている。「情報」を扱うためには、多くのツールの応用が必要である。これらのツールや手法を習得し、また、それらに関する知識を次の世代に伝える学問分野が「情報工学」分野である。情報工学科の教育目標は「情報工学」分野の基礎知識および専門知識を、情報工学科の学生達に教えることである。そのために、情報工学科のカリキュラムは1、2年時に基盤的専門知識を対象にする科目を提供し、3、4年次に専門知識を対象にする科目を幅広く提供している。

2．教育改善や授業点検，成績評価（平均値，成績分布，合格率など）について

平成23年度から新カリキュラムに移行し、情報工学科開講科目の変更を行った。開講科目で非常勤講師担当による科目を減らすため、複数科目を統廃合し、学生に分かり易く、内容に沿った科目名になるように変更した。その結果、特定の教員に授業負担が集中することを緩和できた。また、教育方針では、初年度からパソコンの扱いに慣れることで、パソコン内部情報の専門性を持たせることが可能と考え、入学後すぐの集中講義で、全員にパソコン設定を習得させた。従来は、学科指定パソコンの利用が、アプリケーションの利用に止まり、パソコン内部情報の書換え、設定ファイルの変更など、専門性を有する使い方を習得できていないことが問題として挙がっていた。そこで集中講義では、配布したパソコンの全ファイルをバックアップさせ、全ての設定とアプリケーションのインストールを各自で設定することで、パソコン内部情報を各自の責任で書換えができ、間違えて書換えた場合も、バックアップから以前の状態に復帰できるように指導した。この科目の受講によって、その後の使い方に自由度を持たせて、自己責任で問題修復できるようになったと考えている。

情報工学科は、自由選択制を取っており、実験等の数少ない科目以外の専門科目は全て選択制で、学生にとって興味ある、卒業後に必要な科目に絞ることが可能である。卒業時の学生満足度調査でも、自由度の高さを良いと評価した意見が複数みられた。実施した試験における成績評価はバランスが取れ、大きな問題は存在していないと判断している。学生からも、不公平な判断に起因する不満の声はなかった。

3．学生指導（履修指導や教育相談，生活相談，就職指導など）について

履修指導や教育相談は、学科の教員全員が行っており、現在まで問題は起こっていない。

就職指導は主に卒業研究生を対象に、学科の二人の就職担当者の教員の支援を受けながら、それぞれの研究室別で行った。

4．卒業研究指導について

卒業研究指導を例年どおりに行った。大きな問題はなかったが、今年の就職活動がかなり困難であったため、多くの学生が卒業研究に集中することが難しかった。

5．その他，特記事項（学科独自の教育など）など

必修である電子基礎実験・情報工学実験では、レポートの体裁・内容が不十分な場合、再提出を課し、内容が揃うまで何度も再提出を繰り返している。これによって、4年次の卒業論文記述および就職後の社内レポート記述に繋がる訓練を行っている。

6．添付資料

特になし。

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け，シラバスについて

(1) 教育目標に関する学科3方針（下記）を策定している。

- ・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP））
- ・教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー（CP））
- ・入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー（AP））

(2) 平成23年度から開始された新カリキュラムに対して、学科の基本方針に基づき次のような施策を実施した。

- ・キャリア（職業）に対してできるだけ早い段階から意識づけを行うため、1年次生に対しても「キャリア教育」を実施した。

1年次：「通信キャリア入門」（前期）、必修、0単位）

内容：オリエンテーション（1回）、外部講師による職業指導（4回）、OB講演（2回）、まとめ（1回）

2. 教育改善や授業点検，成績評価（平均値，成績分布，合格率など）について

(1) 各科目・教員ごとに、個別に以下の教育改善を実施した。

- ・ 2010年度卒業生満足度調査結果に応える改善プランについて、次のような施策を実施した。

1) 「科目ごとに何を学んだのかわかりづらい。1回の授業、全ての授業を終えた具体的に何を学んだと解るような流れにしてほしい。」という要望に応えるため、各科目の最初の授業にて次の内容を説明することとした。

- (1) この授業はどの科目の学習成果を引き継ぐのか。
- (2) この授業を学ぶためには、どの授業を履修する必要があったのか。
- (3) この授業で学ぶとは、何を学んだことになるのか。
- (4) この授業で学ぶと、どのようなスキルを身につけることができるのか。
- (5) この授業は、どの資格を取得するのに必要であるか。
- (6) この授業の最終目標は、何であるのか。

さらに、最終授業にて、次の内容を説明することとした。

- (1) この授業の学習は、次のどの授業に必要となるか。
- (2) 授業の最終目標に対して、さらにどの授業で学習する必要があるのか。
- (3) この授業で学んだ成果は何か。

2) 「ホームページの案内がわかりにくいのでもう少し丁寧にしたほうがよい。」という要望にこたえるため、新カリキュラム、教員、研究内容など、内容を新しくするとともに、構成の見直しを行い、わかりやすいHP作りをした。

- ・ パソコン・ネットワーク・アプリの使用...パソコンを用いてスクリーンに画面を投影し、スライド、WEB、アプリケーションソフトなどを用いて、できるだけ興味深く、直感的に理解できるように工夫した。

- ・ アニメーションによるビジュアルな説明...漫画・アニメ世代のせい、活字が苦手な学生が多いので、PowerPoint や Keynote によるアニメーションを用いたビジュアルな説明を心がけた。

(2) 授業評価、成績評価など

- ・ PC、DS、携帯電話を使用する「授業アンケート」を実施し、「授業改善プラン」を作成した。
- ・ 積極的に発言する者に加点...授業中に手を挙げて発言することや、良い質問を行った学生に加点するようにし、積極性を育てるようにした。
- ・ 「教授要目の評価欄」に出席、小テスト、中間テスト、期末テストの評価点割合を明記した。

3. 学生指導（履修指導や教育相談，生活相談，就職指導など）について

(1) 平成17年度より「グループ担任制」による学生指導を継続実施している。

各学年を学科専任教員が担当する8グループに分け、各グループの担当教員より、履修科目の指導、成績交付時の指導、生活全般の指導等、大学生生活全般にかかわる指導を行っている。

(2) 「G P 学生支援推進プログラム」（適性検査およびフォローアップガイダンス等）の実施。

キャリア教育および人間形成のための教育支援の一環として、平成23度は2、3年次生を対象として以下のプログラムを実施した。

2年次生：「自己プログレスレポート」（適性検査）、「徹底活用ガイダンス」（フォローアップガイダンス）

3年次生：「就職適性検査」（適性検査）、「徹底活用ガイダンス」（フォローアップガイダンス）

4. 卒業研究指導について

(1) 平成20年度より「プレゼミナール」において、3年次生に対して卒業研究室別の事前卒業研究指導を継続実施している。

(2) 学生自身によるテーマ設定の実施（自主性尊重のため）。1研究室で実施中。

(3) 教員の価値観を明確に示す。学生に対して曖昧な態度をとらない。

5. その他，特記事項（学科独自の教育など）など

2010年度卒業生満足度調査結果において、通信工学科での満足度に高い評価が与えられた。この結果を踏まえ、9月22日でのFD・SD講演会にて、通信工学科での取り組み状況や教育上の工夫などの報告を行った。

6. 添付資料

なし

以上

1. 教育目標やカリキュラムの位置づけ、シラバスについて
金融や証券投資の分野では高度の理論と実務の最前線が密着しているのが社会科学系の他分野と比較して大きな特色であるといえる。企業や社会の求める人材の育成を標榜する当学科においては、狭義の「アセット・マネジメント」に限定せず、現代の企業、個人に求められる金融や資本市場に関するリテラシーをバランス良く身に着けた人材の輩出を目指すカリキュラム構成、授業内容としている。
2. 教育改善や授業点検、成績評価（平均値、成績分布、合格率など）
多数の教員が実務界出身という特性を活かし、授業内容、方法につき極力インタラクティブなものとするとともに、リアルタイムの教材として時事問題を積極的に取り上げた。また、最先端の情報端末であるBloombergの駅前学舎設置を機に授業やゼミで積極的に活用、学生全員が課題や自主的な研究に自由に活用できる環境を整備した。
3. 学生指導（履修指導や教育相談、生活相談、就職指導など）について
比較的少人数の学科であることから、1、2年生の「担任」方式は学年別の総合カウンセリング担任を配置、加えて資格取得支援やキャリア担当等、個別分野ごとの担当教員を配置した。ゼミに関しては23年度はゼミ1のみであったが、個々の教員が学生を受け入れ、学習、研究指導だけでなく、生活指導、就職活動指導にも当たった。
4. 卒業研究指導について
今年度については該当なし
5. その他、特記事項（学科独自の教育など）など
 - 教員のネットワークを駆使して、金融機関の現場で働く実務家を講師、客員教授に迎えた企業連携講座の開講やインターンシッププログラムの組成等を行った。
 - 夏季休暇中に東京のBloomberg社での研修を企画、10数名の学生を参加させ、情報端末の活用法等についての演習を行った。
6. 添付資料
なし

医療福祉工学部医療福祉工学科 2011(平成23)年度 学科教育点検・評価(FD)報告書

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け, シラバスについて

教育目標は、医用工学系はME1, 2種実力検定試験、臨床工学技士国家試験受験に合格すること、医療情報系は医療情報技師資格、福祉工学系では福祉分野でのエンジニアの養成を目標の一つとして明確化している。

2. 教育改善や授業点検, 成績評価(平均値, 成績分布, 合格率など)について

ME1, 2種実力検定試験や臨床工学技士国家試験の過去問をe-learningにて行い、成績向上、資格取得に役立てている。また、国家試験の直前では国家試験対策ゼミを分野別に行い、合格率向上に努力している。6.添付資料に、第25回臨床工学技士国家試験・学校別合格者状況を記載している。

3. 学生指導(履修指導や教育相談, 生活相談, 就職指導など)について

1、2回生および3回生前期までは担任制にて履修指導、教育相談、生活相談を行っている。3回生後期よりプレゼミとして研究室配属を行い、研究室単位で指導を行っている。また、就職指導では、就職意識を高めるために病院見学や企業見学を行い、さらに医師、臨床工学技士などの医療従事者や企業の方を招き講演会を開催している。

4. 卒業研究指導について

卒業研究指導は3回生前期より行い、12月に卒業研究発表会を全員参加の下で行っており、卒業研究発表会での質問事項、改善点に対して追及研究も行っている。さらに、病院、福祉現場等でのデータ収集を行い、各分野での学会発表、参加も積極的に行っている。

第25回 臨床工学技士国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数			新 卒			既 卒		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
新潟医療科学大学医用工学部臨床工学科	37	37	100.0	35	35	100.0	2	2	100.0
京都保健衛生専門学校臨床工学技士専攻科	22	19	86.4	21	18	85.7	1	1	100.0
日本メディカル福祉専門学校臨床工学科	25	17	68.0	20	16	80.0	5	1	20.0
日本メディカル福祉専門学校臨床工学専攻科	12	10	83.3	10	10	100.0	2	0	0.0
大阪ハイテクノロジー専門学校臨床工学技士科(昼3年)	31	27	87.1	29	27	93.1	2	0	0.0
大阪ハイテクノロジー専門学校臨床工学技士専攻科(昼1年)	58	51	87.9	55	49	89.1	3	2	66.7
大阪ハイテクノロジー専門学校臨床工学技士科(夜4年)	28	15	53.6	17	14	82.4	11	1	9.1
大阪ハイテクノロジー専門学校臨床工学技士科(夜4年)	14	11	78.6	11	11	100.0	3	0	0.0
大阪医専臨床工学科(昼4年)	21	13	61.9	12	11	91.7	9	2	22.2
大阪医専臨床工学科(夜4年)	19	13	68.4	15	12	80.0	4	1	25.0
大阪医専臨床工学科(1年)	5	4	80.0	5	4	80.0	0	0	0.0
大阪電気通信大学医療福祉工学部医療福祉工学科	35	28	80.0	27	23	85.2	8	5	62.5
神戸総合医療専門学校臨床工学科	25	20	80.0	21	20	95.2	4	0	0.0
神戸総合医療専門学校臨床工学専攻科	13	11	84.6	11	10	90.9	2	1	50.0
姫路獨協大学	16	12	75.0	13	10	76.9	3	2	66.7
天理医学技術学校臨床工学専攻科	9	9	100.0	9	9	100.0	0	0	0.0
川崎医療福祉大学医療技術学部臨床工学科	86	69	80.2	81	68	84.0	5	1	20.0
岡山理科大学理学部応用物理学科	23	13	56.5	17	12	70.6	6	1	16.7
岡山理科大学工学部生体医工学科	15	13	86.7	12	10	83.3	3	3	100.0
金沢芸術科学大学生命科学部生命科学科	6	4	66.7	5	4	80.0	1	0	0.0
トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校	27	22	81.5	23	21	91.3	4	1	25.0
広島国際大学保健医療学部臨床工学科	86	58	67.4	73	54	74.0	13	4	30.8
東亜大学工学部生命科学工学科	51	18	35.3	18	14	77.8	33	4	12.1
徳島文理大学工学部臨床工学科	12	9	75.0	11	8	72.7	1	1	100.0
四国医療技術専門学校臨床工学学科	22	22	100.0	22	22	100.0	0	0	0.0
博多メディカル専門学校	25	22	88.0	25	22	88.0	0	0	0.0
東和大学工学部電気工学科	42	31	73.8	31	30	96.8	11	1	9.1
長崎総合科学大学工学部電気電子工学科医療電子コース	3	0	0.0	0	0	0.0	3	0	0.0
熊本総合医療リハビリテーション学院臨床工学学科	22	12	54.5	18	12	66.7	4	0	0.0
大分臨床工学技士専門学校	43	39	90.7	37	34	91.9	6	5	83.3
日本文理大学医療専門学校	38	38	100.0	35	34	97.1	3	2	66.7
九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科	17	17	100.0	17	17	100.0	0	0	0.0
九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科	26	26	100.0	26	26	100.0	0	0	0.0
28									
総 合 計	2,086	1,574	75.5	1,720	1,488	86.5	366	86	23.5

第25回 臨床工学技士国家試験 学校別合格者状況

1 / 2

学 校 名	総 数			第 一 次			第 二 次		
	受験者数	合格者数	合格 率	受験者数	合格者数	合格 率	受験者数	合格者数	合格 率
札幌医療科学専門学校臨床工学技士科	52	40	76.9	43	38	88.4	9	2	22.2
北海道ハイテクノロジー専門学校臨床工学技士学科	38	38	100.0	38	38	100.0	0	0	0.0
北海道工業大学工学部福祉生体工学科	47	33	70.2	37	32	86.5	10	1	10.0
古田学園医療科専門学校	19	16	84.2	18	16	88.9	1	0	0.0
東北文化学園専門学校臨床工学科	70	43	61.4	47	39	83.0	23	4	17.4
国際メディカルテクノロジー専門学校	34	24	70.6	29	23	79.3	5	1	20.0
東洋パティフェイカ学院	23	12	52.2	10	10	100.0	13	2	15.4
太田医療技術専門学校	13	12	92.3	12	12	100.0	1	0	0.0
埼玉医科大学	35	30	85.7	33	29	87.9	2	1	50.0
帝京平成大学情報学部情報工学科臨床工学コース	90	47	52.2	58	42	72.4	32	5	15.6
工科大学工学部危機管理防災システム学科臨床工学コース	8	4	50.0	7	4	57.1	1	0	0.0
東京電子専門学校臨床工学科	48	38	79.2	42	34	81.0	6	4	66.7
日本工学院専門学校臨床工学科(昼3年)	73	53	72.6	63	52	82.5	10	1	10.0
日本工学院専門学校臨床工学専攻科(夜2年)	1	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0
日本工学院専門学校(昼1年)	58	54	93.1	57	54	94.7	1	0	0.0
読売理工医療福祉専門学校臨床工学科	22	17	77.3	18	17	94.4	4	0	0.0
読売理工医療福祉専門学校臨床工学専攻科	30	28	93.3	29	28	96.6	1	0	0.0
池見東京医療専門学校臨床工学科	18	11	61.1	14	11	78.6	4	0	0.0
帝京短期大学	53	25	47.2	36	25	69.4	17	0	0.0
東京医療専門学校	29	16	55.2	23	16	69.6	6	0	0.0
杏林大学	47	46	97.9	47	46	97.9	0	0	0.0
百都医校	12	10	83.3	12	10	83.3	0	0	0.0
北里大学医療衛生学部医療工学科臨床工学専攻	41	34	82.9	36	32	88.9	5	2	40.0
桐蔭横浜大学工学部医用工学科	47	22	46.8	22	8	36.4	25	14	56.0
ふれあい横浜専門学校臨床工学科	4	0	0.0	0	0	0.0	4	0	0.0
国際メディカル専門学校臨床工学技士科	35	30	85.7	35	30	85.7	0	0	0.0
北里大学保健衛生専門学校臨床工学専攻科	32	31	96.9	30	30	100.0	2	1	50.0
小松短期大学	14	12	85.7	14	12	85.7	0	0	0.0
静岡医療科学専門学校臨床工学科	14	12	85.7	12	12	100.0	2	0	0.0
東海大学開発工学部医用生体工学科	37	24	64.9	30	19	63.3	7	5	71.4
東海医療科学専門学校臨床工学科(昼3年)	33	30	90.9	30	29	96.7	3	1	33.3
東海医療科学専門学校臨床工学科(昼1年)	35	33	94.3	32	32	100.0	3	1	33.3
名古屋医専(昼4年)	6	4	66.7	6	4	66.7	0	0	0.0
名古屋医専(夜1年)	2	2	100.0	2	2	100.0	0	0	0.0
名古屋医専(夜4年)	2	2	100.0	2	2	100.0	0	0	0.0
中部大学技術医療専門学校医療専門課程臨床工学技士科	6	0	0.0	0	0	0.0	6	0	0.0
田原大学技術医療専門学校臨床工学科	10	0	0.0	0	0	0.0	10	0	0.0
藤田保健衛生大学	34	33	97.1	34	33	97.1	0	0	0.0

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け、シラバスについて

(ア) 教育目標の設定と説明

教育目標の設定については、学科会議において学科における確認を行っている。特に、最終目標である理学療法士国家試験合格レベルへの到達目標を達成する上での進級判定基準、単位認定基準の確認を励行している。

また、各科目の試験問題作成においても各教員の基準を統一するため、問題に国家試験の過去の問題を挿入することなどの取り決めを行っている。

さらに、卒業に至る必修の単位である臨床実習の単位取得状況やその個々の問題点などを具体的な例を挙げて初年度の科目でも説明を開始している。

(イ) カリキュラムの位置付け

入学時、新年度開始時におけるオリエンテーション期間に、その学年の各科目の階層性、有機的関連性を説明するばかりでなく、4年間のカリキュラム全体の中での位置づけなどを各学年ごとに説明している。

新入生については、教養科目の位置づけ、専門基礎科目の意義、位置づけを繰り返し説明し、専門性の概要を講義する理学療法概論の講義中にも臨床的事象を例にとり、解剖学、生理学、機能解剖学など同時進行している基礎専門科目の学習内容を具体的に列挙しその関係性を説明している。その他に、本学理学療法学科の特徴としての身体の工学的モデルの理解を各科目の中で取り入れ、卒業研究などへの関連づけを行っている。

新カリキュラムの編成に関しては、国家試験合格と臨床実習通過の目標を掲げ科目整理と追加を行った。また、1学年で履修する解剖学、生理学、運動学などの基礎専門科目と専門科目の関連付けを徹底する科目も追加し、臨床実習・国家試験準備への復習も兼ねて基礎知識の充実を目指した。

昨年度までの取り組みに加え、各科目の教授内容の重複、脱落などの確認を行い卒業時の最終到達目標への取り組みに具体的な指標を与えている。

(ウ) シラバス

専門科目については、シラバスに各項目名を明示しても初学者に理解できない専門用語が出る場合、概略のみを示し、講義進行中の学生の反応や理解度を確認しながら進行計画を示す工夫を行っている。

2. 教育改善や授業点検、成績評価(平均値、成績分布、合格率など)について

定期的に、授業内容で、既習の事項の理解がなされていない場合、報告しその原因を分析し、繰り返し講義するなどの対策を講じている。

また、専門科目の担当者の入れ替えなどを行い、学生からの要望の出ているより実践的な内容の教授に努めた。また、国家試験、国家試験模擬試験などで各領域において成績にばらつきがでた場合などは、補講などを開講するとともに、各教育科目の教授内容の修正を行い

、偏りのないものとするよう努めた。

臨床実習についても同様に、毎年開催されている臨床実習指導者会議で実習施設側から指摘される学生の基礎知識、基本的臨床技術の弱点などの克服に努めた。

国家試験準備に関して、精神的動揺や不安に対応するべく合同勉強会形式をとっている。これは、学年全員を国家試験当日と同様の時間配分で同一教室に入室させ、国家試験準備を行わせるものである。また、学内国試模擬試験を週1回実施し、不正解の問題の解消を目標として繰り返し、準備を行わせた。

当初の予想通り、この形式では落ち着いて勉強できないなどのクレームが出たが教員の統一見解として、国試直前までの準備形式として継続することを宣言し、理解させ継続させた。問題点は、時期的にインフルエンザなどの感染防止に注意が必要であった個々の研究室の備品の加湿器などを設置し予防に努めた。

3. 学生指導（履修指導や教育相談、生活相談、就職指導など）について

学生指導については、国家試験や総合臨床実習などの準備を十分に行えるよう研究室配属を3年時に行い、研究室指導教員が中心となって定期的に個人面談を行っている。1年2年次に対しては、グループ担任が中心となって、面談を行っているが、教員によっては、担当講義が少ない学年があり、行き届かない面もあり、低学年の講義担当者がグループ担任に関わらず、講義中の態度、挙動、出席状況などについて学科会議などで逐次報告し担任、主任の対応へと引き継いでいる。その際、必要であれば、主任、担任の複数で学生と保護者に対する面談を行っており、さらには、学生相談室の相談員も交えた面談に至った例もある。学生相談室の活用に関しては、学生相談室からの報告にもある通り、学生数当たりの相談件数は本学科が突出しているが、単なる“丸投げ”にならないよう医務室担当者、相談室窓口担当者との連絡を密にするためにも学科会議などで個別対応状況の報告を励行している。

4. 卒業研究指導について

理学療法学科の特徴の一つであるが、業務守備範囲が広く多岐にわたる科目の総合的な修得を目的として、卒業研究を行っているが、臨床実習などで行われるケーススタディにもその役割を担わせており、両者が、最終学年の学生にとって過重な負担にならないよう卒業研究のレベルについて高すぎる目標設定にならないよう教員間の連絡を密にし指導してきた。卒業研究発表会などで到達目標に大きなばらつきが出ないように各教員間で検討を重ねている。最終学年が、総合臨床実習と国家試験準備に忙殺されることを考慮し、研究室配属を実質的に3年次とし卒業研究の作業を3年次でほぼ完了できるようにしてきたが、さらに、2年次後半へと配属時期を早め指導教員とのきめ細かい指導や、上級学年の研究生との交流からピアの指導が行き渡るよう変更している。上級生の自覚も高まり、下級生同士の連携に加え上下の連携や自身の将来像の明確化などで効果を生んでいる。

5. 特記事項

学科学生全員が理学療法士の国家試験受験資格取得が卒業要件となるため、臨床実習完了が必須条件となる特殊な事情がある。そのため、基礎知識、基本的検査・治療技術など一般的知識の底上げに加え、基本的資質の涵養を教育目標の柱に挙げる必要がある。このため、論理的思考能力の習得は勿論のこと、アカデミックライティングなどの科目を加え、就職時に要求されるコミュニケーション能力の改善に努める。さらに理学療法士としての基本的資

質の具体的な理解を低学年から進めるため理学療法キャリアデザインなどの科目を加え、基本的資質の内容を抽象的な説明で終わらせるのではなく具体的に示し、日常の態度、行動の変化を目標とし改善に努める。

また、本学が今年度から行っている教員と学生との挨拶の励行運動なども、理学療法学科では、開設年度から学生指導の大きな目標としており、現状では日常の学生と教員とのコミュニケーションも深まっている。

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け, シラバスについて

本学科は科学的な視点を持ち,基礎医学やスポーツ科学の知識を備え,スポーツ実践能力及び情報処理技術を駆使して健康指導や健康機器開発の出来る人材を育成する。そして勉学のみならず,豊かな人間性を育み,個性を大切にしながらも協調性や対人コミュニケーション,礼儀を重んじる良識ある社会人として送り出す。ということを教育目標としている。

それらを達成するために健康スポーツ科学科の教育課程は,「総合科目」,「基礎専門科目」,「専門科目」に大別され,1年生から4年生まで系統的に学習できるように編成している。

24年度の入学生から実施する新カリキュラムの作成においては,これまで問題であった基礎学力のばらつきを修正するべく,数学に関しては学力に応じて数学入門,基礎解析,線形代数学にわかれて,学科や学部教員が,学科で学ぶ他の科目に関連した数学力を養うように指導することにした。さらに,基礎生体数学を必修とし,科学的視点でデータ解析を不自由なくできるような学力の養成を目指す。

また,本来必修であるべきいくつかの科目が選択になっていたことが,開設当初から問題だったので,生理学や解剖学等必要な科目を必修化したり,通年化して,この分野に必要な知識を全員がもれなく学ぶようにカリキュラム編成した。スポーツや健康指導の実技においても,自らが参加するだけでなくスポーツ方法実習や健康運動指導実技等指導者としての実技力や指導力を養う科目も充実させた。

2. 教育改善や授業点検, 成績評価 (平均値, 成績分布, 合格率など) について

毎年のことであるが入学時あるいは年度はじめのガイダンスや関連した内容の授業中に,数学等の基礎科目と将来の希望する仕事や希望資格との関わりをわかりやすく説明し,学習意欲を持たせるように指導した。

各学年でも学力レベルを考慮した授業内容展開を科目担当者へ依頼するとともに,専任教員担当科目では,学生のレベルを確認しながら中学や高校での学習内容,科目とのつながりから導入し,本来の内容へ導くよう努めてきた。その結果,たとえ前年度に不合格となった学生でも理解を深めながら単位を修得出来た者や,その他の科目への取り組み態度に変化が現れた者が見られた。一年次ではこのような学習効果を考慮し,成績の合否は特に厳格に評価し,学生各自が自分に不足している学力に気付き,程度によってはその現状が自分の進路にとっていかに障害になるかを気づかせることで,早いうちからの学力の向上に努めさせるようにした。

毎年,一年次前期は騒がしくなる授業が多いことが問題となるが,全体に対する注意を根気強く行なうとともに,前述のように科目の意義や重要性をわかりやすく説明し,厳格な評価を行うことで,学年が進むほど気付きと改善が見られる学生数が増加し,真剣に学ぶ学生が増えたので授業環境も学年進行につれてかなり良好となり,学生の集中度が高くなった。

卒業した一期生の変化を顧みると2年次後半から大きく変化する学生が出現し、3年次にはかなり学生の学ぶ姿勢に変化が現れ、良好な学習環境のもと授業が進められた。そして、最終的には入学当初にはかなり心配された学生にも学力の向上や勉強意欲の改善が見られ、各自の手応えに学生は自信をつけていき進路にもつながった。

3. 学生指導（履修指導や教育相談、生活相談、就職指導など）について

就職指導においては以下の点に力を注いだ。目標を立て（進路決定率70%）その目標を学科で共有して進めた。研究室単位で、情報を集約し学科教員で情報を共有しながら進めた。卒研教員が学生と面談の機会を頻繁に持って就職活動進捗状況を把握・指導し、学科会議で報告して確認した。学内の企業説明会を活用した。学内の企業説明会前に学生を集合させ、就職課に企業の情報を説明して頂き、説明会終了後バスでまとめ寝屋川の会場に送りこんだ。公務員、教職希望の学生に現状を認識させ、企業の就職活動にも目をむけさせた。エントリーシートや面接の個別指導を実施した。特に面接はビデオを取り学生に見せ、自らを客観的に評価させ、自己の欠点を自覚させ、改善させた。画像を見る事で、重要な非言語での印象改善には大いにこの手法は効力を発揮する。（姿勢、癖、目線等々が見られ面接官に与える印象が大きく改善される）又自分の音声を聞く事で声の抑揚、速さ等々の改善につながった。

結果的に、卒業生64名中、大学のデータ基準上の就職に該当するのは38名、大学院進学6名（鳴門教育大2名、畿央大1名、甲子園大1名、本学2名）、で進路決定率は68.7%となるが、実質的に進路が決定しなかった者は3名のみであり、その他の学生は目的に応じた進路を決めている。就職希望者の内定率は95.0%となった。正社員、正職員としての就職以外の進路内訳は柔道整復師国家資格取得のための専門学校進学3名、3年次編入で本学に入学した学生であり教職科目を充足するには卒業までの2年間では不可能なため、編入当初から予定の卒業後科目履修生となった者2名、本学の他学部でとれる免許（技術科）の取得のための科目履修生1名、本学で取得した中学、高校に加えて小学校免許取得のため仏教大通信課程に進学した者1名、消防士や警察官の受験のための専門学校へ進学した者4名、来年の教員採用試験の準備をしつつ非常勤や常勤の講師として公立中学、高校の教員として職に就いた者6名である。結局最後まで活動しなかった者は卒業生64名中2名のみであった。

就職課の話では、S学科の学生は動けば決まるという結果がでたということと、呼び出しに対する反応が他の学科よりもすこぶる良いということだった。学科内での教育方法で、就職課を利用して積極的に動かないと職は得られないということを再三学生に言い続けたことも功を奏したと考えられる。ただし、研究室によっては就職指導をあまり積極的に行わなかったり、学生への働きかけが少ない教員もいたことから、研究室による就職内定率や進路状況に差が見られたので、次年度の就職対策への学科教員全員のさらなる努力を御願ひした。

しかしながら、このように全力を注いだ卒研指導と就職指導を他の教育や研究活動、受験生獲得の営業業務などの多忙な毎日の中で継続して個別にきめ細かく実施していくことは、教員にとってかなりの継続的負担であり、他の業務や健康への犠牲を強いられた状況であったので、このままでは今後も真剣に取り組む教員の健康阻害が心配され、業務内容の改善が望まれる。

4. 卒業研究指導について

卒業研究指導は3年次8月の配属決定より各研究室にて実施した。学生の希望を基本に5から10名ずつ配属され、各自それぞれのテーマに関して調査や実験、測定を行い、データをまとめて2月の卒業研究発表会での発表及び口頭試問をへて卒業論文を作成、提出した。指導方針は各研究室教員にゆだねられたため、研究室ごとの特色が発揮され、バラエティーにとんだ発表内容ではあったが、卒業研究に対する学生の認識や、到達目標、研究内容レベルに研究室間較差がみられたことや発表内容を見た学生間に若干不公平感があったことが反省点でもあった。

そこで24年度は、発表までに何段階かのチェックポイントを設定し、はじめに学生全員に予定を知らせ、締め切りごとに提出物を出させ、遅れている者は行動修正させる等の予防策を決めて実行している。

5. その他、特記事項（学科独自の教育など）

スポーツクラブでの現場実習

健康運動指導実習において、3年次履修学生20名に対し、近畿（大阪、京都）のコナミスポーツクラブ12店舗（1店舗で、1名ないし2名受け入れ）で実習を実施した。内容はフロント、マシンジム、スタジオ、プール等々での接客及び現場でのお客様への指導実習であった。学生には日報の提出を科し、何をしたのか？何を学んだのか日報形式で提出させた。店舗側には事前にこちらで用意した学生の評価を店舗の責任者が記入し回収した。

健康運動指導士養成校の合格率は52.7%であるが、残念ながら本学では23年度の健康運動指導士受験者7名中合格者2名（28.6%）であった。一方、健康運動実践指導者は昨年実技試験の変更があったため、事前の個人指導を多く行った。その結果、養成校全体の合格率は54.6%であるのに対し、本学では受験者12名中10名（83.3%）が合格した。

教職課程

教職課程科目の指導は特に厳しく行い、模擬授業等の実際の実力をつけさせるように学生に自ら考えさせ、行動できるように指導している。そのためか教職生は実践的な授業を受ける段階になると、教職科目の知識だけでなく、他の学習態度や対人面でもかなりしっかりしてくる者が多いことが見受けられた。24年3月卒業生の保健体育の教員免許取得者は中・高両方の一種免許取得が18名、高校のみ取得が6名であった。

そのうち7名は非常勤や常勤（うち1名は正職員就職に該当）の講師として中学、高校の教員の職に就いたが、教員採用試験合格者はいなかったことをふまえて二期生以後は自主的な参加を呼びかけるだけでなく、全国模擬試験の半強制的な導入を試み、それらの受験や、フィードバックによる教科成績アップも目指している。教職生には早いうちから保健体育科教員採用の厳しい競争率と自分の学力の現実を自覚させ、準備勉強に十分とりくむよう指導している。その結果、現在模擬試験による採用試験合格判定に向上が見られ、今年の採用試験では良い結果が得られるのではと期待できる学生もいる。模擬試験への参加状況や成績によっては、教職をあきらめさせ他の道を考えさせることもあるという覚悟で学生にも対応している。

6．添付資料
なし

1．教育目標やカリキュラムの位置付け，シラバスについて

学科の教育目標は，自立的にものごとを考える力があり，コンテンツ制作のための創造力と技術力を備え，それを発信するコミュニケーション能力と社会性を身に付けた人物を育てることにある。この意味するところは，学科の教育目標が単にデジタルクリエイターを育てるということではなく，職種を問わず幅広い分野において社会で活躍できる人物を育てるということでもある。

2009（平成21）年度から学科内に設けたWG「カリキュラム改訂委員会」を中心に学科会議で検討してきた新カリキュラムを今年度より施行した。「思い描く」「創造する」「発信する」というコンセプトをもとにした，コンテンツ制作のコア科目とその関連科目を順次開講していく。本カリキュラムでは，学生の職業意識の向上と就職対策を目的として，1年次に「キャリアデザイン1」を，2年次に「キャリアデザイン2」を，3年次に「キャリアプランニング論」を設置し，さらに，卒業研究・制作を必修とすることにより，学生を自立した人間として社会へ送り出す体制の強化を図っている。

上記の通り，1年次生から新カリキュラムとなり，よりの確に授業内容を把握できるようになった。また，カリキュラム移行に伴い，2年次以上の学生が1年次配当科目を履修する際に不都合や不便がないよう十分に留意している。具体的には1年次の開講科目の一部を，旧カリキュラムの学生対象と新1年生対象に分け，2時限開講するなどの特別措置をとっている。また，年度ごとに購入するPCが異なる点にも各教員が配慮し，授業設計を行っている。

シラバスについては，授業内容がよりわかりやすく，学生が主体的に，かつ自主的に学習できる内容となるように，詳細な内容を記載することを徹底している。

2．教育改善や授業点検，成績評価（平均値，成績分布，合格率など）について

教育改善，授業点検の観点から，教員に他の教員の講義を聴講することを勧めている。教員同士で授業の進め方や工夫について互いに学び，意見交換することにより，授業の質の向上につながると考えている。今年度は全教員が互いの聴講するには至っていないため，引き続き次年度でも互いの講義聴講を勧め，さらなる教育改善につなげたい。

また，学生に対してはオリエンテーション時期から日常のあいさつの励行などの指導や，授業に関連することや，学外での学びになる場の紹介などを目的とした教員からの情報発信を活発に行うなど，学生の学ぶ姿勢の向上につながることを授業内外で試みている。

講義科目については，授業内容や方法について教員各自の創意工夫を求めるとともに，先に述べた教員同士の聴講と意見交換により，随時改善，工夫を求めている。演習科目については，単なる技能・技術の習得だけではなく，コミュニケーション力をつけるための方略としてグループワークを従来から多く取り入れている。コンテンツ制作現場はもちろん，一般企業でも，共同作業は重要であるので，学科の方針として今後もコミュニケーション活動を重視していきたい。

成績評価については，教員間のバラツキを少なくし学生の間に不公平感が起きないように注意

した。

3．学生指導（履修指導や教育相談，生活相談，就職指導など）について

「ゼミナール入門」（1年次前期）は，学生が学科でどのような学生生活を送っていけばよいのかという指針になるような科目として位置付けている。専任教員がリレー式に講義をし，学生が学科での学習や将来像をイメージしやすいように配慮している。学外でプロのコンテンツ制作者として活躍している教員の講義は学生にとって特に刺激や励みになっているようである。

学生の生活面についてはグループ担任のまとめ役の教員を決め，その教員に情報が集約されるようにしている。また，学生の休学，退学といった問題があった場合には，本人だけではなく，できるだけ保護者とも直接話をするように学科では確認している。精神的な問題を抱えている学生が予想外に多いため，情報の共有を全教員が強く意識し，学科会議では学生の状況について毎回確認している。離学者対策のためにもこの情報共有を徹底し，具体的な対策を考えることが次年度の課題である。

就職については，入口科目・出口科目を設定しているが，それにとどまらず日頃から学生の職業意識を育むように努めている。また，進路支援室の有効利用についても指導してきた。履歴書やエントリーシートの作成といった技術的な指導については，進路支援室だけではなく各教員も指導することで対応している。学生の文章力の低さが問題となっているため，「ゼミナール入門」で毎回作文の提出を求め，さらには他の授業でも文章作成の機会を多くするなど，文章を書く習慣作りに努めた。また，文章力はもとより，コミュニケーションやプレゼンテーション力の向上を目指すため，新カリキュラムでは「ビジネスコミュニケーション演習」（2年次前期）を開講する。

4．卒業研究・制作指導について

卒業研究・制作の発表会である「なわてん」については，今年度もW学科とT学科と共同開催し，成功裏に終えることができた。教員の熱心な指導もあり作品レベルは年々向上してきている。しかしながら，例年開催し，学生へも告知しているにも関わらず，3学科とも1～2年次生の参加が多くないことがわかってきた。卒業研究・制作の発表会に参加し，上級生の研究・制作から何かを感じ，学ぶことは自発的学習には欠かせないと考え，今年度は特に下級生の参加を促すことを大きな目標とし，周知徹底した。その結果，多くの学生の参加があった。上級生の研究・作品に感化された学生たちの今後の研究・制作が楽しみである。また，例年「なわてん」には多くの卒業生も参加している。現役の学生にとって卒業生と直接話をし，職業のことや，学生時代の卒業研究・卒業制作の話聞くことも刺激になると考え，卒業生と現役学生が交流できる場の提供としてW学科と合同の「OB/OG会」も開催し，多くの卒業生の参加を得た。卒業研究や卒業制作作品は外部からの評価の対象となり，ひいては学科の評価につながるため，さらに質を向上できるように学科として取り組んでいく予定である。

昨年度から，オープンキャンパスの期間に学科の全研究室を開放し，卒業研究・制作の中間発表の場としている。また，9月にはプレゼンテーションの形で中間発表会を開催しており，これまでより卒業研究・制作発表会での全体的なプレゼンテーションのレベルが上がったと思われる。

就職率については、どの研究室においても極めて良くない。この点については学科内でも討議を続けており、今年度からは各研究室で学生の就職活動の実体を把握することを徹底し、学生の就職意識の向上に努めていたが、反省する点の多い結果となったことは事実である。次年度は、就職活動状況の把握やアドバイスだけにとどまらず、研究室に所属する学生に各教員から具体的な指導を行うようすすめていきたい。学生の気質や将来像が他学部の学生とは異なる面があり、難しい点もあるが、就職を望む学生の援助には学科としての協力体制の強化は必要不可欠と考える。

5. その他、特記事項（学科独自の教育など）など

（1）「電Ch!」企画

学生とプロの教員スタッフとの共同プロジェクト「電Ch!」による実写映像作品「おかっぱちゃん旅に出る」が一昨年に完成し、Web上公開ならびに劇場公開された。今年度はJIAMSの企画として、DVD販売が実現し、参加した学生達はコンテンツ制作の貴重な経験に加え、関わった作品が市場に出るという喜びと責任を学ぶことができたと思われる。また、次年度には新しい「電Ch!」の企画が始動する。この企画のコンペを2012年3月に実施した。

こうした活動を通じて学生はプロの厳しさを学ぶだけでなく、学習に対する意識も前向きに変わっていきっており、学科としては今後もこの活動を支援していく。

（2）江南大学との交換留学プログラム

今年度も中国江南大学から留学生を受け入れた。留学生への事前指導として、前年度に引き続きQとWの教員が提携校の江南大学で講義と演習を行った。同校での授業は学生から好評を得たとの報告を得ている。また、留学生たちは全員授業にも熱心で、学業成績も極めて良好であり、充実した学生生活を送っているように見受けられる。

以下は江南大学へ講義に出向いた本学科の教員数と渡航期間である。

2011年 9月 4日より 9月10日 1名

（3）シェリダン大学との交換留学プログラム

今年度もカナダシェリダン大学との交換留学プログラムを実施し、同大学に本学科より女子3名、男子2名の計5名の学生が2011年9月11日より9月24日の期間短期留学をした。また、引率者として本学科からは1名の教員が同行している。参加学生は学習面や生活面で大いに刺激を受けて帰国し、他の学生にもよい影響を与える傾向があるので、今後もこのプログラムの充実を図りたい。

なお、シェリダン大学から本学への短期留学については、東日本大震災の影響により今年度は中止とされた。

（4）北京科技大学との交換留学制度へ向けた事前指導

次年度より、中国北京科技大学から留学生を受け入れるため、留学生への事前指導として、Q、W、Aの教員が提携校の北京科技大学で講義と演習を行った。同校での授業は学生から好評を得たとの報告を得ている。

以下は北京科技大学へ講義に出向いた本学科の教員数と渡航期間である。

2011年10月31日より11月 4日 1名

(5) タイ王国NECTECの訪問

2012年3月15日にタイ王国のNational Electronics and Computer Technology Center (NECTEC) の研究員・職員ならびに同センター主催のアニメーションコンテストで優勝した高校生と大学生からなる訪問団が本学四條畷キャンパスへ訪れ、本学科からは4名の教員が対応にあたった。

(6) インターンシップ，産学協同コンテンツ制作

学外でのインターンシップやJIAMSとの産学協同のコンテンツ制作により，参加学生は力をつけており，これらの経験が就職へつながる可能性も大きいと考えている。

(7) SNSを使った学科情報の発信，在学生，卒業生との交流

SNS (Social Networking Service) であるTwitterとFacebookを使って，学科ブログの更新情報，学科のイベント情報，教員の活動のお知らせ，展覧会情報などを，学内外に向けて発信している。在学生だけでなく，卒業生やその他のユーザからも多くのフォローがあり，SNSの特徴を活かした相互の情報交換も行われている。今年度の卒業制作展「なわてん」では，SNSでの呼びかけによって，多くのOB・OGが四條畷キャンパスを訪れた。以下にURLを示す

Q学科Twitterアカウント http://twitter.com/ddaa_jp/

Q学科Facebookページ <http://www.facebook.com/ddaa.jp/>

また，ゼミによっては自主的にSNSを利用してアクティビティを発信しているところもある。以下に倉地ゼミSNSのURLを示す。

倉地ゼミtwitterアカウント http://twitter.com/kuralab_project/

倉地ゼミ色彩検定対策twitterアカウント <http://twitter.com/kuralabot/>

倉地ゼミFacebookページ <http://www.facebook.com/kuralab>

(8) Q学科メールマガジン「デジアニ・メルマガ」の発行

毎月，または隔月で，学科内の行事，学生に推薦する展覧会の情報などをメールマガジンの形式で，全学年の学生宛にメール配信している。配信されたメールマガジンは上述したQ学科Facebookページにもアーカイブされており，いつでも閲覧することができる。編集長は原久子教授が担当している。

(9) 学生ラウンジの開設

これまで古書や参考書等をおき，自習スペースとして開放していたライブラリ(6-112)を，学生中心のコミュニケーションや発表の場とできるようなスペースに変更し，「学生ラウンジ」として開放した。

6 . 参考資料 (四條畷図書室)

資料1 「2011年度卒業研究・制作発表要綱」 (卒業研究・卒業制作について)

資料2「なわてん図録2012」（卒業研究・卒業制作について）

学科の全般的な活動については学科ブログサイト <http://www.ddaa.jp/> をご覧いただき
い

以上

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け，シラバスについて

2008年度の学科専門科目カリキュラム改訂において、学生の興味関心と学科の人材育成目標との最適化を図ることを目的に、従来の3コース制から新たに6ユニット制へ変更し、学際領域を横断的によりダイナミックに学べる自由度の高いカリキュラムにアップデートした。具体的には、情報工学系科目群としてScience・Development・Systemの3つのユニット、芸術デザイン系科目群としてArt & Design・Graphicsの2つのユニット、企画プロデュース系科目群をEntertainmentユニットとして計6ユニットで編成している。

選択肢の増加は学びの自由度が上がる一方で、学生各自のカリキュラム設計を複雑にする要素も併せ持つ。その点を解決するツールとして、履修をサポートするための4年間のカリキュラムリスト（添付資料1. W2008年度カリキュラム.pdf）を制作し各年次で開催する進級ガイダンス時に配布し、学生各自の履修状況の確認に活用している。新カリキュラムへの移行4年目を迎えたが、学生個人の興味領域や志向が、明確に履修科目の選択に現れていることが見て取れる。

デジタルアート・アニメーション学科と合同で、総合科目群の中に1年次生を対象の「大学入門」（前期土曜日・集中 開講）を独自に設定し、大学での学びのシステムやスタイル、またその活用方法について理解を促している。同様に、1年次前期開講の「日本語表現法」においても、環境適応性・自主性・協調性を、自然に身に付けさせることを目的として、自己分析と自分表現を出発点に、グループワークでの企画立案・コンテンツ制作を体験させ、最終的にはプレゼンテーションまでの流れを形成し、学科における学生各自の立ち位置を相互に理解し合う場としても機能している。

これらの科目は、学生相互の人間関係の形成に大きく影響するものであり、初期段階でのドロップアウトを防ぐ効果もあると考えている。

4年間を通して、グループ単位で主体的活動をおこなう授業の組み立てを多く配置し、社会から期待されるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力をはじめとした人間力の育成を意図している。

シラバスの記載に際しては、学科教員個々に以下の配慮がなされている。

科目の目的では、この科目を学んで身につけられること（知識、能力）ができるだけ具体的に分かるように記述している。

内容・目標は、実際に行なう内容に即した15回の記述を原則としている。

評価方法は、評価項目とその重みだけでなく、評価項目の意味するところの説明も記述している。

特に第1回目の授業ガイダンスにおいて、シラバスの内容を詳細に説明する資料を別途配布し、シラバスの内容が意味するところ、教員の授業観・学生観、授業方法について解説している。また、この科目での学習方法もアドバイスしている。

シラバスに記載した科目の目標や内容に対応する形で、科目において課す課題を明示し、学生の科目に対する理解をより促すよう配慮している。

2. 教育改善や授業点検，成績評価（平均値，成績分布，合格率など）について

成績評価については、学科教員個々に以下の配慮がなされている。

シラバスに記載した評価基準を、第1回目の授業ガイダンスで説明するとともに、中間テストや、定期試験の前に、それらを再度説明している。また、教育的配慮において、その評価基準を変更する必要がある時は、受講生にあらかじめ授業中に説明し、受講生が不利にならないような、変更にとどめている。

教育改善や授業点検については、学科教員個々に以下の配慮がなされている。

毎回到業終了10分前には、その回のまとめを行ない、受講生にラーニングアウトカム（学んだこと）を、各自で整理するよう促している。

学生の志向と資質、技術の進展に合わせて、同一科目であっても、毎年、教授内容を柔軟に変更させている。

各回の授業概要を、授業開始までにウェブサイト上に公開し、授業終了以降も授業期間中は閲覧・参照できるようにしている。授業概要には、講義の要約や課題内容を記載し、自学のサポートとなるよう配慮している。

授業アンケートを積極的に取り入れ、授業改善レポートについても、真摯に回答するよう努めている。センターの集約によるウェブでの公開のみならず、授業内でもアンケート結果に触れ、担当教員としての見解を明確に示した。

授業への積極的な参加を促すとともに知識の定着を図るため、授業中に調べ学習やミニレポート作成をおこなっている。提出物については授業内でフォローするよう配慮している。

3．学生指導（履修指導や教育相談，生活相談，就職指導など）について

新年度を迎える前に，各年次（新2年次・新3年次・新4年次）に対して，それぞれ学科教育内容に関するガイダンスを実施し，各年次での教育内容の主要なポイントを解説するとともに，教育目標を再確認することで学科教育に対するモチベーションの維持向上を促している。

また，編入生・転科生などに対しては入学時にほぼ一対一の履修指導を実施し，各自の入学以前の学修状況を鑑み，学科教育にスムーズに浸透していける履修プログラムの設計について指導している。

学生指導については，学科教員個々に以下の配慮がなされている。

質問や相談に訪れやすいように，授業で適宜アナウンスをしている。また具体的に，教員室のドアをいつも半開き程度にし，学生がのぞきやすい印象を持ってもらえるようにしている。

プログラミング技術について教える際，できるだけその技術が現場で使われている例を最初に示し，なぜその技術が必要なのかを理解させてから，詳細の説明に移っている。

プログラミング技術の習得は常に新しい情報の獲得と実際的な応用経験が重要であるため，プログラミング言語や開発環境についての最新情報へのアクセス方法や読み取り方などについても説明をしており，演習方法についても学生のモチベーションを高めるために，個々のニーズを重視した課題設定を行い，課題発表を一つの目標においた方法を用いる科目もある。

デザイン系科目においては，デザイン思考の開発と表現技術の獲得の両面から教育指導にあたり，特に多様な表現形態について視る眼を養うことを意識し，課題作品の講評の際には学生作品1点ずつにコメントを付している。

デザイン系志望学生に対しては，就職活動をおこなう上で重要なアイテムとなるポートフォリオについて，制作指導をおこなっている。

心理的・精神的な問題を抱える学生については，カウンセラーとの密な連携を取って指導にあたっている。

就職活動に対するサポート（エントリーシート添削や会社見学の引率など）を実施している。

礼節の大切さと実践する気持ちよさを，毎回の授業で体感させることを徹底している。具体的には，授業開始時に大きな声で「おはようございます」と発声し，それに対して学生も「おは

ようございます」と返す。授業終了時に大きな声で「おつかれさまでした」と言い、それに対して学生も「おつかれさまでした」と返すというものである。

協働の精神、個人の社会性の向上、社会への寄与の研究姿勢を持たせ、生の声を直接聞き、変化する社会を表と裏から見ること、現場意識と政治への関心、実践力をつけることを強く意識している。フィールドで生の実態を掴むと同時に、学術的態度として俯瞰的、普遍的、根源的なものの見方をさせるようにしている。

編入生および留学生については、それぞれを対象とした履修指導を実施している。また、履修登録時においても事務職員による説明会に学科教員を配置し、個別の質問などに対応できるよう配慮している。

就職活動に対するサポートとして、言語能力の向上を目指し、小論文の課題や社説の音読・要約に取り組ませている。最初は教員が各自の小論文や要約の添削をおこない、学生が慣れた時点で相互添削をさせている。評価者になることで、より意識的に文章を読む・書くという習慣づけを図っている。

就職活動記録シート（添付資料2. W就職活動記録シート.xls）を導入している。その書式に学生各自が就職活動状況を記入し、指導教員に月に1度報告するしくみをつくり、ゼミ所属学生の就職活動状況の把握と指導に用いている。

4．卒業研究指導について

4年次へ進級する段階でガイダンスを実施し、卒業研究および制作のガイドライン（添付資料3. W卒業研究制作ガイドライン.doc）について明確に説明している。また、卒業研究および制作に関する各種イベントのスケジュール（添付資料4. W卒業研究制作スケジュール.xls）についても、この時点で発表し、学生の自主的な取り組みの立ち上がりを促している。

卒業研究・制作指導については、学科教員個々に以下の配慮がなされている。

研究室内でのゼミ以外に、毎月、学外者（他学科、他大学、企業関係者）との研究会を開催し、視点・視座・価値観の多様さが重要であることを意識させている。さらに議事録を書かせ、ドキュメンテーション力を高めている。また、その場で3ヶ月に1回は研究報告もさせ、プレゼンテーション、コミュニケーション力の実践的能力の育成をしている。

定期的に学外者（OB、他大学教員、企業関係者）と合宿ゼミを開催し、集中的な討議の経験をさせている。そこでは、新入社員としてのマナーや基礎知識の訓練もおこなっている。

外部の研究機関と共同でフィールドワークを実施し、学んだことを実際に活用できる場を設けている。またそうした活動のメディア取材などにおいても、学生にも出演する機会をもうけ、日頃の自分たちの活動の様子を伝えることの大切さや、わかりやすくデモをすることの必要性などを実感できるようにしている。

他大学の研究室に見学に出かけ、研究に対する取り組みの姿勢やレベルの参考にさせている。

3年次後期の研究室配属決定後、ゼミ所属学生個々が講師となって、各自の興味領域について講演をおこなう課題を課している。ゼミ生相互の個性を理解する一助とするとともに、講演のための資料準備やプレゼンテーションを通して、その後の研究・制作発表への導入としている。

3年次後期の研究室配属決定後、4年次生が3年次生を指導する勉強会を集中して実施し、卒業研究・制作に必要となる専門的な技術や知識を早い段階で習得できるようにしている。これによって就職活動が本格化する時期に、学業と就職活動が両立しやすいようにしている。

3年次後期から積極的に学会発表（ゲーム学会、電子情報通信学会、情報処理学会、芸術科学会など）をおこなっている。

Asia Pacific Next Generation (APNG) Campなど、学術と国際交流を含めた学会にも発表している。

学外での作品発表（西淀川ものづくりまつり2011、第7回なわてふれあい商工まつり、おおさかカンヴァスプロジェクト2011、ナレッジキャピタルトライアル2011、第4回大阪オープン・イノベーション・マッチング会など）をおこなっている。

積極的にコンテストやコンペティション（神戸ビエンナーレ2011、ゲーム学会ゲーム作品コンペ、にいがたデジコングランプリ2011など）に応募している。

自治体や地域との連携として、寝屋川市まちづくりに関する市民意識調査をゼミで実施するなど、制作・研究テーマとして地域貢献（寝屋川市の防犯、防災、経済活性化策など）を主題にしている。

英語文献、学会誌なども含め、多様な情報源を活用して知識の習得に努めさせている。本研究室の特徴となる技術については、テーマに関係なく全員に習得させるため、集中的に課題に取り組ませている。

PCを教材としているため、本学図書館の豊富な電子ジャーナルを活用し、英語論文からの最新動向の獲得にも取り組ませている。

5．その他，特記事項（学科独自の教育など）など

学科独自の教育としては、以下の取り組みがあげられる。

入学後早期に学生の把握をおこなうことを目的に、新入生の顔写真撮影を実施している。

ノートパソコン導入教育（5～7コマ）を実施している。学科教材としてのノートパソコンを学生生活に中で有効活用するために、初期段階で集中的なリテラシー教育を実施している。

4月から5月の期間は、特に新入学生の動向についての情報交換を、学科会議および学科メーリングリストを通じて頻繁におこなっている。

年度当初には学科教育に参画いただいている非常勤講師の方との懇談会を実施し、学科教育目標や科目連携の確認をおこなうとともに、幅広い専門領域を持った教員相互の親睦を深める機会としている。

5月中旬に新入生歓迎会を実施している。単なる懇親の場としてだけではなく、「日本語表現法」の授業内で形成されたグループごとに、ショートプログラムを企画・実施し、授業との連動による教育的な側面も加味したイベントとなっている。

Tokyo Game Showへの出展を、学内コンペ形式で展示作品の選考をおこない実施している。授業内でのコンテンツ制作指導を端緒として、授業外においても学生の自主的なグループ編成によるコンテンツ制作に取り組む体制が形成され、授業の枠を超えて学科専門教育の見地から教育効果が非常に高いプログラムであると判断している。

総合情報学部としてカナダ・シェリダンカレッジとの短期交換留学制度を実施している。国際コミュニケーション能力の養成という観点で、参加学生の成長は著しいものがあると感じている。

中国・江南大学との国際交流協定のもと、デジタルアート・アニメーション学科、デジタルゲーム学科両学科教員の現地での出張講義を実施している。日本語能力を研鑽中の学生が対象であるため、チームティーチングの実施や教材の検証・開発など授業運営の工夫が必要であり、本来の設定目的とは別に教員研修としての機能も併せ持っている。

3年次前期開講の「プレゼミ」においては、専任教員の各研究室の研究・制作テーマや指導内容などについて、理解を促すためのプレゼンテーションを実施し、卒業研究・制作への導入として位置付けるとともに、SPI模擬試験の実施など進路選択の端緒としても捉えて授業運営をおこなっている。

インターンシッププログラムは、学科設立後3年次を迎えた段階で実施し、これまで継続的に展開している。教員のコネクションを通じた企業開拓や四條畷学務課・進路支援室の協力を得て、一定の企業数を確保して実施している。プログラムを修めた学生は、就業体験を通して協働の精神とコミュニケーション能力の重要性を強く認識し、その後の学生生活を送っている様子がうかがえる。

オープンキャンパスにおいて、学科学生主導のイベントを企画運営している。在学中に自分の所属する学科を客観的に分析し、学生の目線で学科広報の方向性を具体的に企画するイベントプロデュースを通じて、来訪者に対する学科のアピール向上と同時に、学生の専門分野の見地からの教育効果も併せて意図したものである。

卒業研究・制作発表会および「なわてん」の実施に際しては、4年次生の研究・作品発表の場として、その準備運営にはゼミに配属された3年次生が、教員の指導のもとあたっている。

学科設立当初から、教員相互また学外からの来訪者による授業参観は頻繁におこなわれていたため、授業参観については自由に受け入れる学科の雰囲気形成されている。

TA・SA講習会を実施している。学外から招聘している演習補助員の方の協力をいただき、大学院・学部学生のTA・SAとしての教育指導力向上を目的に、2008年度に初めて実施した。今年度は大学院2年次生を中心に実施・運営にあたった。

また、2008年度カリキュラムのユニット制による教育内容の検証をおこなうユニットリーダー (Units Reader) のシステムを導入し、2011年度の学科会議にて新カリキュラム導入に向けた議論を重ねた。ユニットリーダーは、2008年度カリキュラム内の6つのユニットの科目編成について、それぞれのユニットを構成する各科目のシラバスを熟読し、ユニットを完成することで得ることのできる専門能力の明確化や科目間の連携による教育効果の向上を目的として、新カリキュラム編成に向けた提言をおこない、その提言を起点として十分な議論を重ね2012年度カリキュラム (添付資料5. W2012年度カリキュラム.pdf) の策定に至った。

6. 添付資料

1. W2008年度カリキュラム.pdf
2. W就職活動記録シート.xls
3. W卒業研究制作ガイドライン.doc
4. W卒業研究制作スケジュール.xls
5. W2012年度カリキュラム.pdf

1. 教育目標やカリキュラムの位置付け, シラバスについて

教育目標

本学科では, 以下の教育目標で理工系の情報教育を行っている.

- 進化し続ける IT 技術の基盤となる知識の獲得
- 即戦力となり得る実践力の育成
- コミュニケーション能力などを中心とした社会性の向上

カリキュラム

本学科のカリキュラムは, ACM (世界最大のコンピュータサイエンスの学会) が策定した標準カリキュラムCC2001に対応している. 2005年の学科開設に合わせて, 上述の教育目標に基づいてカリキュラムを設計した. その後4年間の運用を踏まえて, 2009年度入学生から新カリキュラムを開始した. 新カリキュラムでは, コース制を規則化し, 実習・演習科目を増やし, 企業との連携授業を導入している. 学年進行に伴い, 新カリキュラムの学生は3年生まで進んでいる.

JABEE

コンピュータサイエンス教育プログラム (略称CSコース) を設け, 外部第三者評価であるJABEE (日本技術者教育認定制度) の認定を目指し, 教育の質やサービスの向上に努めている. なお, JABEE認定を受けないコース (情報処理コース, 略称IPコース) の学生に対しても, 各科目における合格基準は同一にしている. JABEEの認定延長のための審査を今年度受審した.

シラバス

本学科の専門科目のシラバスにおいては, 「授業目標」「授業スケジュール」「合格基準」「評価項目」を必ず明示するようにしている.

2. 教育改善や授業点検, 成績評価 (平均値, 成績分布, 合格率など) について

教育改善・授業点検

JABEEの認定を目指すべく, 各教員が統一された方針で授業の質を高めることを心がけてきた. 2009年度から学科内にFD担当教員を定め, FD会議を開き, 半期に1回授業内容の点検を行っている.

2009年10月にJABEEの審査を受け, 2010年5月13日付で本学科の「コンピュータサイエンス教育プログラム」が「情報および情報関連分野」のJABEE適合プログラムとして認定された. 認定期間が切れるため, 2011年11月に再度JABEEの審査を受けた. 前回受けた改善勧告に対する対応を行い, 受審を受けている. 今回の受審での評価を踏まえて, 今後さらなる教育改善を進めていく.

成績評価

本学科の方針として, 成績の相対評価は行わず, シラバスに明示した合格基準と評価項目に基づき絶対評価を行っている. その結果として, 科目によっては合格率がかなり低いものもあり, 学科の平均としても他学科に比べると低い. また, 半期の授業で4回以上欠席すると未受験扱いにするというルールを設けている (シラバスに明記) ため, 受験率は低くなりがちである. これらの傾向は, 合格者のレベルを保証するためある程度はやむを得ないが, 一方で授業の改善も行

い受験率低下の対策を行っている授業もある。

3．学生指導（履修指導や教育相談，生活相談，就職指導など）について

履修指導

年度末や年度初めに設けられた学科オリエンテーションの時間以外に，1年生向けには「ゼミナール演習1」，2年生向けには「ゼミナール演習2」の中で，学科の教育の方針やJABEEや履修のポイントについて説明を行っている。

教育相談・生活相談

グループ担任の方法にはこれまでに試行錯誤があったが，2009年度からは，新入生を5グループに分けて，1グループにつき主担任1名，副担任1名の教員が担当している（担任は2年ごとの持ち回り）。

入学式直後の新入生オリエンテーションでは，2009年度からアイスブレイキングを導入している。また，4月18日に新入生歓迎会を実施し，学生同士や学生と教員が打ち解けるように工夫をした。

1年次の必修科目である「ゼミナール演習1」においては，グループ別の授業の回を設けて，担任教員に話をしやすいようにしている。また，この科目で欠席が多い学生に対しては，担任から本人や家庭へ電話連絡するようにしている。

就職指導

2011年度は，1年生向けに「ゼミナール演習1」の中で3回，2年生向けに「ゼミナール演習2」の中で4回，キャリア形成のための授業を実施した。

3年生向けに学科独自の進路ガイダンスを1月6日に開催した。また，後期科目「キャリアプランニング」の中で筆記試験対策，模擬試験を行っている。

3年生の1月からは，学科独自に定めた「就職活動進捗管理票」を毎月指導教員に提出させ，その際に面談をして一人ずつに指導をおこなっている。

学務課が発行する欠席証明書は，選考試験を伴わないと発行されないため，授業の欠席を気にして就職活動が鈍る学生がいたので，学科独自の「就活欠席証明書」を制定している。説明会だけでも指導教員が承認することによって証明書を発行し，学科教員の担当の授業であれば，正規の欠席証明書と同等に考慮するように申し合わせがなされている。

4．卒業研究指導について

本学科では，3年次で「卒業研究」を行っている。2年次の7月に配属の研究室を決定し，2年次の後期にプレゼミを行い，3年次の年度初めから卒業研究を開始し，3年次の年度末に終了する。卒業研究の合格を4年次への進級条件にしている。また，3年次の月～金曜日の3，4時限に卒業研究を割り当てており，原則としてこの時限に他の科目を受講することはできない。

上述のような制度によって，学生に十分な時間をかけて能動的な学習を行わせ，問題解決能力，プログラミング能力，プレゼンテーション能力などを修得させる。これを3年次の年度末までに終わることによって，身に付けた能力を就職活動に役立てることも狙っている。

学科の方針として，研究テーマは一人ずつ異なり，複数人で1テーマは認めていない。合格の基準として，学習・教育目標の達成に加えて，540時間以上の従事，中間報告（口頭発表）2回，20

ページ以上の論文，最終発表（口頭発表），1000行以上のプログラム（CSコースのみ）を定めている．論文と最終発表は複数の教員で評価を行い，可否を判定する．

最終発表会では，各研究室から選抜された学生による優秀研究セッションを設けている．これらの学生は全教員で評価し，最優秀研究を選定する．上位の学生は，当該年度の学業優秀賞に推薦している．

世間では，就職活動が年々早期化しており，3年生の後半で開始しなければならないのが現状である．本学科では，その時期に卒業研究が佳境であり，学生の就職活動の開始が遅くなるのが問題になりつつあった．そこで，2010年度から，卒業研究の終了を論文の1ヶ月以上早めたスケジュールにしている．今年度は論文提出期限を12月20日，最終発表会を12月26，27日に実施した．これによってこの問題はある程度緩和されている．

本学科では，以上のように独自の方法で卒業研究を実施しており，学生の能力向上に効果を上げていると思われるが，一方，途中で脱落する学生が少なからず存在する．また，指導にかかるコストの割には，就職の実績につながっていないのではないかという意見もあり，実施方法については，さらなる検討が必要である．

なお，研究をさらに続けたい学生や大学院進学予定者のために，4年次配当の選択科目として「特別研究」を設けている（CSコースでは必修）．

5．その他，特記事項（学科独自の教育など）など

学科指定ノートPC

学科開設の2005年度から毎年新生に学科指定のノートPCを購入させている．このノートPCのハードディスクは，学科独自に設定したもので，WindowsとLinuxのデュアルブートが可能であり，学科の授業に必要な各種のソフトウェアがあらかじめインストールされている．このPCを活用して，プログラミング能力やコンピュータ運用能力を向上させることを狙っている．また，後述のe-Learningを利用して，一般の授業にも役立っている．

E-Learning

MC2の協力を得て，ウェブベースのe-LearningのMoodleを学科として積極的に活用している．例年約70のコースが設けられており，一般の授業以外に，研究室単位のプレゼミや卒業研究の運用にも利用されている．

課外活動

「ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト」に出場する有志学生の課外活動を学科として支援している．また，コンピュータグラフィックスに興味のある学生のために「メディコンプロジェクト」と称する課外活動も実施している．

6．参考資料

1. 資料1 メディアコンピュータシステム学科パンフレット
<http://cs-oecu.jp/wp-content/uploads/2009/07/cs-oecu-leaflet09.pdf>
2. 資料2 メディアコンピュータシステム学科ウェブページ
<http://www.cs-oecu.jp/>

教養教育のあり方についての Memo

■近年、大学における教養教育について関心が集まっている。

- 1991 年の大学設置基準の大綱化による教養教育軽視の傾向に対して、従来の教養教育を見直し、時代に即した教養教育（リベラルアーツ）の再構築。
- 科学技術の進展により、専門教育に偏重した大学教育を見直し、汎用性の高い能力（ジェネリック・スキル）の形成を指向した教養教育の構築。

■両者とも、従来の教養教育が今日の社会にはそぐわないという問題意識がある。

■教養教育の変遷

- ・ 古代ギリシャが発祥
- ・ 中世ヨーロッパでの宗教教育
- ・ ピューリタンとリベラルアーツ・カレッジ（ハーバード大学）
- ・ 日本における教養教育（戦前の教養教育の流れとアメリカのリベラル・アーツの流れをくむもの）
- ・ 大学設置基準の大綱化（1991 年）

■今日の大学における教養教育は、リベラルアーツ・カレッジ（プログラム）が直接の起源

- 同志社大学－新島襄（）
- 津田塾大学－津田
- 桜美林大学

■各大学における教養教育の見直し・再構築（別紙）

■ジェネリック・スキル

【背景】^{*1}・ある特定の職業や職種に必要な知識や技術を持っているだけでは、長期的に安定した職業生活を送ることができなくなっている。

- ・ グローバル化により、世界的な変化を受けて仕事内容が常に変化する可能性があり、またその変化のスピードも IT 社会化により早くなっている。

【ジェネリック・スキル】とは……

- 転移可能な能力（以下、吉原論文参照）
- ジェネリック・スキルでは、文字通り転移可能なスキル（技能）を取り上げているのであり、教育内容・学習内容でない。したがってジェネリック・スキルは、教養教育、専門教育を問わず求められる能力とされる。
- こうしたこともあり、ジェネリック・スキルをキャリア教育と結びつけてとらえる傾向がある。

*1 吉原恵子「大学教育とジェネリックスキルの獲得」

【日本でのジェネリック・スキルの展開】

- 吉原論文参照

【ジェネリック・スキルー福井大学の場合】

福井大学工学部材料開発工学科 (<http://matse.u-fukui.ac.jp/kyoiku/gakushiryoku.htm>)

ジェネリック・スキル教育科目

今、大学教育では「学士力」という言葉が重要なキーワードになっています。「学士」は大学を卒業した人をさし、学士力とは「大学卒業までに学生が最低限身につけなければならない能力」を意味します。福井大学工学部では、このような能力を習得してもらうため、平成22年度より「ジェネリック・スキル教育プログラム」を開始しました。ジェネリック・スキルとは、知的活動においても、また職業生活や社会生活においても必要となる「コミュニケーション能力」、「論理的思考力」、「問題解決力」などの汎用的技術を意味します。

本プログラムでは、「工学リサーチⅠ」、「工学リサーチⅡ」、「工学創造演習Ⅰ」、「工学創造演習Ⅱ」という4つの科目(ジェネリック・スキル科目)を設定(想定)しています。実際には、ジェネリック・スキル教育科目は、各学科の専門教育科目として開講されます。学生諸君のジェネリック・スキル教育科目に対する積極的な取り組みを期待します。

ジェネリックスキル教育科目対応表（材料開発工学科）

開講科目名	想定するジェネリック・スキル科目	教育内容
大学入門セミナー (個別講義の部分)	工学リサーチⅠ	調査課題により、情報調査・統合、レポート作成、プレゼンテーションのスキルの修得を目指す。
基礎科学実験	工学リサーチⅡ	実際の製品を対象とした問題解決型課題によりグループ討論を行いながら、チームワーク力、コミュニケーション力の修得を目指す。
初等化学/ 初等物理	工学創造演習Ⅰ	製品の考案・製作を目指した問題設定・解決型課題により、創造性、柔軟性、批判的思考力、時間管理力の修得を目指す。
材料化学実験	工学創造演習Ⅱ	「工学創造演習Ⅰ」の内容に加えて、さらに自立性、自己管理能力、計画性を加えた総合的なジェネリック・スキルの確立を目指す。

■ 「有能で分別のある人間」と「全面的に発達した個人」

- J.S.ミルから K.マルクス……一層リアリティをもった教養教育

J.S.ミル 「大学はすべての知識を、人生にとって価値あるもの、即ち、われわれ各人が人類のために実際に役立つ人間になること人類そのものの品性を高めること、つまり人間性を高貴にすることという二重の目的を達成するための主な手段として、提供しなければなりません」

「人々が法律家や医者や製造業者になる前に、まず人間なのであり、もし我々が彼らを有能で分別のある人間に育てるならば彼らを有能で分別のある法律家や医者にすることができる」

- k.マルクス「資本論」

「こうした科学を応用する大工業の『技術的基礎は革命的』であり、生産技術だけでなく「労

働者の機能や労働過程の社会的結合をも絶えず変革します。さらに社会的分業をも絶えず変革し、『大量の資本と労働者の大群とを一つの生産部門から他の生産部門へと絶えまなく投げ出し投げ入れ』ます。こうして『大工業の本性は、労働の転換、機能の流動、労働者の全面可動性を必然的にする』のです（I 511）^{*1}。」^{*2}

「マルクスは『大工業は、いろいろな労働の転換、したがってまた労働者のできるだけ多面性を一般的な社会的生産法則として承認し、この法則の正常な実現に諸関係を適合させることを』、そしてまた『一つの社会的細部機能の担い手でしかない部分個人の代わりに、いろいろな社会的機能を自分のいろいろな活動様式としてかわるがわる行うような全体的に発達した個人をもってくることを、一つの生死の問題にする』と強調しています（I 514）。機械性大工業は、全面的に発達した個人を死活問題とする。」^{*3}

○流動化する現代社会において、リベラルアーツはどう応えるのか。

○ジェネリック・スキルは、「全面的に発達した個人」を必要とする機械性大工業の本姓に対する資本主義的対応。

○労働と教育の結合 → 本学の実学指向性の可能性

■ 21世紀を見通した教養教育の在り方

2011年今日の本学学生は、平均余命を70～80年と仮定すれば、21世紀の後半にわたる期間を生き、時代の担い手となっていく。こうした彼らに、急速な科学・技術の進展、社会変化、さらには宇宙までも視野に入れた時代を担える基礎的な力を培うことが求められる。

教養教育は、今日のこうした時代的要請にどう応えていけばよいのか。これが、この学習会のねらいであり、意義である。

*1 原著「資本論」第一巻 511p

*2 野口宏「第3講 産業革命と情報通信技術革命」『時代はまるで資本論』,2008, 昭和堂

*3 野口宏 前出書

要 保存

総合科目 ガイダンス (寝屋川版)

人間科学研究センター (略称：AHセンター)

I. 大学と教養教育

みなさん、入学おめでとうございます。
これから大学での学習が始まりますが、ここでは総合科目について案内をします。「学修必携」とあわせて見てください。

■教養教育とは

(1)総合科目と教養教育

大学の教育は一般教育と専門教育に分けられます(学校教育法第83条)。一般教育はまた、教養教育¹⁾ともとらえられています。本学では、一般教育すなわち教養教育を、総合科目として実施しています。

(2)総合科目は、全学共通科目

教養は、特定の人々の専有物ではなく、すべての人々が享受されるべきものであり、教養を学ぶ総合科目は、全学生が学べる全学共通科目になっています。

また学科を超えた「大阪電気通信大学人としての人間像」(本学基本理念)の骨格となるのが教養であり、総合科目は全学生が学ばなければならないものなのです。

(3)教養とは

それでは、教養とはなんですか。
教養のことを英語では、リベラル・アーツといいます。liberalには、「自由主

義の、進歩的な」という意味があります。artsは、単数形ではartですが、よく使われる「芸術」という意味の他に「技術」「技芸」という意味もあります。語源的には、リベラル・アーツは、「自由な生き方の技術」、すなわち原義²⁾としては「人を自由にする学問」という意味です。教養を身につけるとは、単に「物知りになる」ということではありません。

では、どんな学問が人を自由にするのでしょうか。その例として、歴史の認識について考えてみましょう。

(2) 何を知るべきか

みなさんは、高校まで日本史や世界史を学習してきたと思います。「794(天智)うぐいす 平安京」とか、「1192(伊弉)つくろう 鎌倉幕府」とか、年号や事項を憶えてきたのではないのでしょうか。

しかし学問としての歴史学は、こうした過去の年号や事項を知って、私たちが生きている今、すなわち現在を知り、そのことによって未来を見通す手がかりを得るためなのです。どう見て行けば、あるいは考えて行けば、そんなことができるのでしょうか。

たとえば今の日本は、日中戦争から太平洋戦争(1937～45)の

前に非常によく似ていると言われています。景気は悪く、失業率も高い。



誰かグイグイと引っ張り、現状を打破してくれる人間が現れないかというムードも広がっています。軍事力を強化して、外国に脅されないようにしようという声も弱くはありません。

しかし、今の日本はどのようにして出来上がってきたのでしょうか。日中戦争から太平洋戦争に至るまでの戦争と国民に対する様々な抑圧を戦後強く反省し、今後は複雑な国際関係の中で絶対に平和と民主主義を守ろうと心に決め、頑張ってきました。それがどのような過程をたどって今日に至ったのか解明したとき、現状を克服する道も見えてくるのではないのでしょうか。その時初めて、いろいろな歴史的事実の認識も生きてくるのです。



歴史を学ぶとは、決して年表を丸暗記することではありません。歴史を学ぶとは、歴史の教訓に学

び、未来を見通す力（先見性）を養うことなのです。

■現代社会と教養教育

こうした「人を自由にする学問」としての教養は、ものの見方・考え方・行動の仕方の基本を学ぶものと言えます。そしてこの教養や教養教育が、今まさに重要だと言われているのです。

今日、IT革命という言葉に見られるように、目覚ましい科学・技術の進展は、社会のありさまや人々の暮らしを激変させています。インターネットを通じて情

報は瞬時に世界を駆け巡ります。それにより株式や為替相場が一瞬のうちに変動し、その影響は私たちの暮らしにも影響を及ぼします。またインターネットを通じて行われた抗議デモなどの呼びかけが、一国の政府さえ倒し、大統領を交代させたりもします。

ITだけではありません。バイオテクノロジー、ゲノム研究、再生医療、脳科学、ナノテクノロジー、宇宙探査……等々、様々な分野において、速いスピードで、しかも持続的に、大きな進歩が生まれています。

ところがそうした進歩は同時に、地球環境・生態系破壊、地域紛争・テロ、新型感染症、金融危機といった、人類の生存にとって深刻で、大きな問題を次々引き起こしています。今度の原発問題もこれらのうちの一つです。これらは、私たちの暮らしや社会のあるべき姿を鋭く問うています。

このように激動する社会にあって、「人を自由にする学問」としての教養を身につけていなければ、羅針盤（コンパス）も海図もなしで大海を航海するようなものです。どんなに勇気や腕力があっても時代の流れや社会の動きに翻弄され、本当の自由は手に入りません。

教養教育は、みなさんの視野を広め、考え方を練り、生き方に奥深いところに関わり、人類の進歩と発展に寄与していく最も大事な教育なのです。



■教養教育と専門教育

教養教育 (liberal arts) の起源は、古代ギリシャ・ローマ時代に求められ、ルネッサンス期に至るまで、哲学 (キリスト教的世界観) を頂点に、自由七科といわれる学問分野に分かれていました。その後学問の分化が進み、19 世紀に入るとほぼ現在のような物理学、化学、医学、工学、経済学、法学、商学、言語学、歴史学、などの分野が確立されてきました。そしてその後も学問の分化はさらに進んでいきます。



このような学問の分化が専門教育を生み出してきたのです。

と同時に、専門教育の「根っこ」(ベース) に、それらに関連付けるものとしての教養教育が重視されてきたのです。

例えば工学を理解するためには、基礎的な数学や物理学などの理解が求められます。また、社会科学についての理解も必要です。反対に、そうした専門知識は教養的知識の発展のための基礎ともなります。

要するに、教養と各専門分野が、一本の軸で貫かれ、結ばれたとき、それぞれの分野はその本来の輝きを見せるのです。

II. 総合科目の履修の要点

■総合科目の4つの領域

総合科目は、次の4つの領域に区分されています。

A群：人文・社会・自然群
B群：外国語群
C群：健康・スポーツ群
D群：キャリア形成群

A～D群の各科目は、選択科目 (ただし英語を除く) ですが、それぞれの群ごとに卒業要件単位が定められています。これは、みなさんに「人を自由にする学問」としての教養教育をバランスよく履修をしてもらうためです。各群の卒業要件単位数を満たしたうえで、総合科目全体の卒業要件単位数を満たしていなければ卒業することはできません。



卒業することにはできません。

卒業要件単位数は、学科により多少違いがありますから、「学修必携」などで確認しておいてください。

■人文・社会・自然群 (A群)

人文・社会・自然群 (以下A群) は、さらに次のように区分されています。

「人間の探求」

「人間の探求」では、ものの見方・考え方・行動の仕方の軸となる哲学をはじめ、人間の心理や発達についての科目、教育、宗教など人間理解を深める科目から構成されています。これらの科目を通して自己の理解も深めてください。それは、青年期の重要な課題です。

「文化の理解」

ここでは、人類の築いてきた文化について、歴史や文学・芸術を通して学びます。さらに私たちが生きている国際化した現代社会を構成する異文化について理解を深めます。

「社会の認識と人権」

ここでは、人間社会のルールである法律や生活の原動力である経済、そして社会発展の舵取りともいえる政治について理解を深めます。本学の総合科目の特長として、これらの社会科学を自らの暮らしに引き寄せて学習します。



自らの暮らしに引き寄せて学習します。

「自然の認識と科学の方法」

「自然の認識と科学の方法」では、専門科目との重複を避け、人間を大事にしていこうという考えから、環境と生命をとりあげ、自然科学と科学の方法についての理解を深めます。

「社会とコンピューター」

コンピューターや携帯電話を使ってインターネットに接続し、情報を手に入れることが当たり前だと考えている社会のことを情報社会と呼んでいます。

この情報社会の中で生活を営んでいる私たちは、コンピューターを思い通りに使えることや、インターネットの特性をうまく利用できるようになっておかなければなりません。また、実社会と同じように、他の人たちとトラブル



を起こさないようにするためのルールを知っておく必要もあります。こ

では、これらについての基本とすべき事柄について理解を深めます。

卒業要件単位は、以上の小区分ごとには定められてはいませんが、**教養科目としてバランスのとれた履修に心がけてください。**

【重要】A群科目には、教職課程の必修科目や選択必修科目となるものも含まれていますから、教職をめざすみなさんは、教職課程と照らし合わせ履修してください。

■外国語群（B群）

外国語群（以下B群）は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語に区分されます。

1科目の単位数は1単位で、卒業要件単位数は6単位以上（うち、選択必修科目である英語の4単位を含みます）です。

英語については、別にガイダンスが行われますので、ここではドイツ語、フランス語、中国語、韓国語についてとりあげます。

中国語・韓国語

近年、中国市場の広さ、中国経済のめざましい発展から、中国語に対する関心が高まっています。また韓国ドラマの流行や韓国経済の動向から韓国語に対して、若い人から中・高年層まで韓国語に対する関心が高まっています。同じ東アジアの国として、中国語

や韓国語を学ぶことは、国際理解という点でも重要なことです。

本学では、初修外国語のカリキュラムは大変充実しています。たとえば中国語の配置は次のようになっています。

学年	コマ数	講義名
1年	前期 2	中国語1 中国語2
	後期 1	中国語3
2年	前期 1	中国語4
	後期 1	中国語特別ゼミナール1
3年	前期 1	中国語特別ゼミナール2

前期の「中国語 1」と「中国語 2」は同時に履修し、入門段階に週二回授業があることで大変効果的な学習ができます。言語によっては担当者の配置は違いますが、「中国語 1」と「中国語 2」は、ネイティブ講師と日本人講師がペアになって同じテキストを使用しリレー形式で行います。具体的に言いますと「中国語 1」はネイティブ講師が担当し、「中国語 2」は日本人講師が担当します。それぞれの長を活かしたペアティーチングにより総合的な中国語力を身につけることができます。

前期の「中国語 1」と「中国語 2」及び後期の「中国語 3」の授業を通して、中国語検定試験の準4級レベルに達します。

本学は中国語検定協会の委託会場として、毎年11月に中国語検定試験を実施しています。受講生の多数が一年目に準4級に合格しており、さらに継続的な学習によって準1級に合格した者もいます。

語学力を高める以外に



「中国語特別ゼミナール」では、中国語でIT用語を学習し、実践力を身につけるために、中国語を用いてWebページの検索をしたり、メールを受発信するなどの力も養成しています。

このように本学では初修外国語に関しても充実したカリキュラムとなっており、着実に勉強すれば、英語以外にもう一つの外国語をマスターすることが十分可能になります。

ドイツ語・フランス語

2009年以來ユーロ圏では、ギリシャ、アイルランド、ポルトガルで債務危機が生じ、今やユーロ圏



域が大きな危機に陥り、世界経済にも連動しています。激動の時代・社会にあって、ユーロ圏域が一つの焦点であり、その中心国がドイツとフランスです。こうした時代だからこそ、ドイツ語やフランス語を学ぶことが、大きな意義を持ちます。外国語を学ぶということは、その国の言葉の背景にある歴史や文化、国民性などを理解することにもなるのです。たしかに英語は世界各国で通用する言語ですが、英語に頼りっきりになることは、アメリカ社会というサングラスをかけて他の国を見ってしまうと言うリスクもあるのです。

ドイツ語やフランス語を学ぶなかで、ヨーロッパの歴史と伝統、社会を理解することは、みなさんの視野を広げ、皆さんが生きる日本という国を理解するうえでも欠かすことのできないことです。

■健康・スポーツ群（C群）

健康・スポーツ群（以下、C群）は、「健康の科学」として実技と講義が提供されています。その目的は、学生生活の中でのリクリエーションや気分転換の機会の提供というだけでなく、社会人になってからも生涯にわたって自ら健康を維持していくための基礎知識や技術を身につけてもらうことです。同時にそれは、ひとつの事をみんなで協調・共同して行う機会、他人との**コミュニケーション**の機会を提供することにもなります。

講義では、自分のからだについて学び、これからスポーツとどう関わってゆけばよいのかを探ってもらいます。

また、スポーツ実習は、授業科目の中でリフレッシュできる数少ない時間です。「楽しくなければスポーツじゃない！」を基本に、健康やスポーツについて学んでいきましょう。

【重要】 C群のスポーツ実習科目については、第1回目の授業の際にガイダンスを行いますので必ず出席してください。グラウンド、ボウリング場、卓球場のクラスそれぞれに定員があり、クラスへの振り分けをしなければなりません。もし**第1週目に欠席するとクラス配置ができません**。その場合には受講できなくなることがあります。（万が一欠席した場合は、高橋保則先生へ早急に申し出ること。）

なお、受講に先立って、『履修登録の手引き』を熟読し、1週目に手引きを持参してください。

■キャリア形成群（D群）

キャリア形成とは、一口に言えば、働くことを軸に、自らの人生を切り開いていく力をつけるということです。

D群では、人生の目的をしっかりと定め、その目的を達成するために、これまで学んできた力やこれから獲得していく力をまとめあげ、見通しと段取りをつけていくことをねらいとしています。見通しと段取りのなかには、卒業後の進路や生活とともに、大学生活をどのように送るのかも含まれています。

1年次の「キャリア入門」「〇〇学入門」（学科によって名称が変わります）では、大学生活に慣れることと、これからの大学生活の過ごし方などを考えていきます。

2年次の「キャリア概論」（前期）、「キャリアデザイン演習」（後期）では、卒業後の就職や生活について、その方向性を定め、卒業までに何を学び、何をしなければならぬかを考えていきます。

3年次前期の「キャリア設計」では、卒業後自分が就こうとする職業をしぼり、エントリーシートの書き方など実際のテクニックも学びます。3年次後期には、インターンシップにより、働くことの意義や実際を体験的に学びます。

そのほか、D群には、日本語能力を基礎から高め、表現力や論理的思考力などを身につけていく日本語上達法（2年次）と、小集団で課題意識をもって問題解決に取り組む「総合ゼミナール」（2年次）が開講されています。

D群の卒業要件単位数は、4単位以上です。



Ⅲ. 教職課程の履修の要点

本学で取得できる教員免許状は、下の表の通りです。取得できる免許状の種類は、学科により異なります。

技 術/ 中学一種	機械工学科 環境科学科
工業/高校一種	電気電子工学科 電子機械工学科 環境科学科 情報工学科 通信工学科
数学/中学一種 /高校一種	電気電子工学科 電子機械工学科 基礎理工学科 情報工学科 通信工学科
理科/中学一種 /高校一種	基礎理工学科 環境科学科
情報/高校一種	電気電子工学科 情報工学科 通信工学科

教員免許状を取得するには、教職課程を履修し、定められた教職関係の科目の単位を取らなければなりません。

詳しくは、『学修必携』の「教職課程」、に、**教職課程履修についての重要な内容**が書いてありますので、履修希望者はよく読んでおいてください。

教職課程科目は、2年生から履修することが出来ます。ただし、毎年後期に実施する「教職課程履修希望者への事前説明会」に出席しておかなければ履修は出来ません。つまり、1年次後期に実施する事前説明会に出席しなければ、2年生になっても教職課程科目の履修は出来ないこととなります。2年次に実施する事前説明会に出席し、3年生から教職課程科目を履修する方法も考えられますが、教職課程は科目数が多いので、なるべく1年生のうちに出席し、2年生から履修できるようにしてください。

なお、「発達心理学」、「現代社会と青年の心理」は、1年次に総合科目A群として開講されますので、教職を希望する人はあらかじめ履修しておくことが望ましいでしょう。





MEMO



*1 英語では一般教育を general education 教養養育を liberal arts と呼びます。

*2 その言葉が本来もっていた意味。もとの意味。原意。

要 保存

総合科目 ガイダンス (四條畷版)

人間科学研究センター (略称：AHセンター)

I. 大学と教養教育

みなさん、入学おめでとうございます。
これから大学での学習が始まりますが、ここでは総合科目について案内をします。「学修必携」とあわせて見てください。

■教養教育とは

(1)総合科目と教養教育

大学の教育は一般教育と専門教育に分けられます(学校教育法第83条)。一般教育はまた、教養教育¹⁾ともとらえられています。本学では、一般教育すなわち教養教育を、総合科目として実施しています。

(2)総合科目は、全学共通科目

教養は、特定の人々の専有物ではなく、すべての人々が享受されるべきものであり、教養を学ぶ総合科目は、全学生が学べる全学共通科目になっています。

また学科を超えた「大阪電気通信大学人としての人間像」(本学基本理念)の骨格となるのが教養であり、総合科目は全学生が学ばなければならないものなのです。

(3)教養とは

それでは、教養とはなんですか。
教養のことを英語では、リベラル・アーツといいます。liberalには、「自由主

義の、進歩的な」という意味があります。artsは、単数形ではartですが、よく使われる「芸術」という意味の他に「技術」「技芸」という意味もあります。語源的には、リベラル・アーツは、「自由な生き方の技術」、すなわち原義²⁾としては「人を自由にする学問」という意味です。教養を身につけるとは、単に「物知りになる」ということではありません。

では、どんな学問が人を自由にするのでしょうか。その例として、歴史の認識について考えてみましょう。

(2) 何を知るべきか

みなさんは、高校まで日本史や世界史を学習してきたと思います。「794(天智)うぐいす 平安京」とか、「1192(伊弉)つくろう 鎌倉幕府」とか、年号や事項を憶えてきたのではないのでしょうか。

しかし学問としての歴史学は、こうした過去の年号や事項を知って、私たちが生きている今、すなわち現在を知り、そのことによって未来を見通す手がかりを得るためなのです。どう見て行けば、あるいは考えて行けば、そんなことができるのでしょうか。

たとえば今の日本は、日中戦争から太平洋戦争(1937～45)の



前に非常によく似ていると言われています。景気は悪く、失業率も高い。

誰かグイグイと引っ張り、現状を打破してくれる人間が現れないかというムードも広がっています。軍事力を強化して、外国に脅されないようにしようという声も弱くはありません。

しかし、今の日本はどのようにして出来上がってきたのでしょうか。日中戦争から太平洋戦争に至るまでの戦争と国民に対する様々な抑圧を戦後強く反省し、今後は複雑な国際関係の中で絶対に平和と民主主義を守ろうと心に決め、頑張ってきました。それがどのような過程をたどって今日に至ったのか解明したとき、現状を克服する道も見えてくるのではないのでしょうか。その時初めて、いろいろな歴史的事実の認識も生きてくるのです。



歴史を学ぶとは、決して年表を丸暗記することではありません。歴史を学ぶとは、歴史の教訓に学

び、未来を見通す力（先見性）を養うことなのです。

■現代社会と教養教育

こうした「人を自由にする学問」としての教養は、ものの見方・考え方・行動の仕方の基本を学ぶものと言えます。そしてこの教養や教養教育が、今まさに重要だと言われているのです。

今日、IT革命という言葉に見られるように、目覚ましい科学・技術の進展は、社会のありさまや人々の暮らしを激変させています。インターネットを通じて情

報は瞬時に世界を駆け巡ります。それにより株式や為替相場が一瞬のうちに変動し、その影響は私たちの暮らしにも影響を及ぼします。またインターネットを通じて行われた抗議デモなどの呼びかけが、一国の政府さえ倒し、大統領を交代させたりもします。

ITだけではありません。バイオテクノロジー、ゲノム研究、再生医療、脳科学、ナノテクノロジー、宇宙探査……等々、様々な分野において、速いスピードで、しかも持続的に、大きな進歩が生まれています。

ところがそうした進歩は同時に、地球環境・生態系破壊、地域紛争・テロ、新型感染症、金融危機といった、人類の生存にとって深刻で、大きな問題を次々引き起こしています。今度の原発問題もこれらのうちの一つです。これらは、私たちの暮らしや社会のあるべき姿を鋭く問うています。

このように激動する社会にあって、「人を自由にする学問」としての教養を身につけていなければ、羅針盤（コンパス）も海図もなしで大海を航海するようなものです。どんなに勇気や腕力があっても時代の流れや社会の動きに翻弄され、本当の自由は手に入りません。

教養教育は、みなさんの視野を広め、考え方を練り、生き方に奥深いところに関わり、人類の進歩と発展に寄与していく最も大事な教育なのです。



■教養教育と専門教育

教養教育 (liberal arts) の起源は、古代ギリシャ・ローマ時代に求められ、ルネッサンス期に至るまで、哲学 (キリスト教的世界観) を頂点に、自由七科といわれる学問分野に分かれていました。その後学問の分化が進み、19 世紀に入るとほぼ現在のような物理学、化学、医学、工学、経済学、法学、商学、言語学、歴史学、などの分野が確立されてきました。そしてその後も学問の分化はさらに進んでいきます。



このような学問の分化が専門教育を生み出してきたのです。

と同時に、専門教育の「根っこ」(ベース) に、それらに関連付けるものとしての教養教育が重視されてきたのです。

例えば工学を理解するためには、基礎的な数学や物理学などの理解が求められます。また、社会科学についての理解も必要です。反対に、そうした専門知識は教養的知識の発展のための基礎ともなります。

要するに、教養と各専門分野が、一本の軸で貫かれ、結ばれたとき、それぞれの分野はその本来の輝きを見せるのです。

II. 総合科目の履修の要点

■総合科目の3つの領域

総合科目は、次の3つの領域に区分されています。

A 群：人文・社会・自然群
B 群：外国語群
C 群：健康・スポーツ群 (健康・スポーツ科学科を除く)

A～C 群の各科目は、選択科目ですが、それぞれの群ごとに卒業要件単位が定められています。これは、みなさんに「人を自由にする学問」としての教養教育をバランスよく履修をしてもらうためです。各群の卒業要件単位数を満たしたうえで、総合科目全体の卒業要件単位数を満たしていなければ卒業することはできません。



卒業要件単位数は、学科により多少違いがあります

から、「学修必携」などで確認しておいてください。

■人文・社会・自然群 (A 群)

人文・社会・自然群 (以下 A 群) は、さらに次のように区分されています。

「人間の探求」

「人間の探求」では、ものの見方・考え方・行動の仕方の軸となる哲学をはじめ、人間の心理や発達についての科目、教育、宗教など人間理解を深める科目から構成されています。これらの科目を通して自己の理解も深めてください。それは、青年期の重要な課題です。

「文化の理解」

ここでは、人類の築いてきた文化

について、歴史や文学・芸術を通して学びます。さらに私たちが生きている国際化した現代社会を構成する異文化について理解を深めます。

「社会の認識と人権」

ここでは、人間社会のルールである法律や生活の原動力である経済、そして社会発展の舵取りともいえる政治について理解を深めます。本学の総合科目の特長として、これらの社会科学を自らの暮らしに引き寄せて学習します。



「自然の認識と科学の方法」

「自然の認識と科学の方法」では、専門科目との重複を避け、人間を大事にしていこうという考えから、環境と生命をとりあげ、自然科学と科学の方法についての理解を深めます。

「社会とコンピューター」

コンピューターや携帯電話を使ってインターネットに接続し、情報を手に入れることが当たり前だと考えている社会のことを情報社会と呼んでいます。

この情報社会の中で生活を営んでいる私たちは、コンピューターを思い通りに使えることや、インターネットの特性をうまく利用できるようになっておかなければなりません。また、実社会と同じように、他の人たちとトラブルを起こさないようにするためのルールを知っておく必要もあります。ここで



は、これらについての基本とすべき事柄について理解を深めます。

卒業要件単位は、以上の小区分ごとには定められてはませんが、教養科目としてバランスのとれた履修に心がけてください。

【重要】A群科目には、教職課程の必修科目や選択必修科目となるものも含まれていますから、教職をめざすみなさんは、教職課程と照らし合わせ履修してください。

■外国語群（B群）

外国語群（以下B群）は、英語、ドイツ語、中国語、韓国語に区分されます。

1科目の単位数は2単位で、卒業要件単位数は12単位以上です。

英語については、別にガイダンスが行われますので、ここではドイツ語、中国語、韓国語についてとりあげます。

中国語・韓国語

近年、中国市場の広さ、中国経済のめざましい発展から、中国語に対する関心が高まっています。また韓国ドラマの流行や韓国経済の動向から韓国語に対して、若い人から中・高年層まで韓国語に対する関心が高まっています。同じ東アジアの国として、中国語や韓国語を学ぶことは、国際理解という点でも重要なことです。

本学は中国語検定協会の委託会場として、毎年11月に中国語検定試験を実施しています。受講生の多数が一年目



に準4級に合格しており、さらに継続的な学習によって準1級に合格した者もおります。

【重要】中国語は、授業で使用する教科書が先生ごとに異なりますので、間違っても別の教科書を買わないためにも、第1回目の授業に必ず出て、各先生の指示に従ってください。

ドイツ語

2009年以來ユーロ圏では、ギリシャ、アイルランド、ポルトガルで債務危機が生じ、今やユーロ圏域が大きな危機に陥り世界経済にも連動しています。激動の時代・社会にあって、ユーロ圏域が一つの焦点であり、その中心国がドイツです。こうした時代だからこそ、ドイツ語を学ぶことが、大きな意義を持ちます。外国語を学ぶと言うことは、その国の言葉の背景にある歴史や文化、国民性などを理解することにもなるのです。たしかに英語は世界各国で通用する言語ですが、英語に頼りっきりになることは、アメリカ社会というサングラスをかけて他の国を見ってしまうと言うリスクもあるのです。

ドイツ語を学ぶなかで、ヨーロッパの歴史と伝統、社会を理解することは、みなさんの視野を広げ、皆さんが生きる日本という国を理解するうえでも欠かせることのできないことです。



■健康・スポーツ群（C群）

健康・スポーツ群（以下、C群）は、「健康の科学」として実技と座学が提供されています。その目的は、生涯にわたって自ら健康を維持していくことができるための素養を身につけてもらうことです。

スポーツでは‘うまい’、‘へた’という評価の観点が一般的ですが、自らの健康を維持するためには、‘うまい’‘へた’という評価はあまり意味がありません。生涯にわたってスポーツに取り組むためには、自分に適した種目・関わり方を見つけること、ケガをしない技術を身につけることが重要です。さらに、実践のためには三つの間が必要になります。この三つの間とは‘時間’‘空間’そして‘仲間’です。スポーツ実習では、ひとつの事をみんなで協調・共同して行う機会、他人とのコミュニケーションの時間を重視して展開されます。

座学では、健康に関する情報が氾濫する現代社会において、科学の観点から健康に関する基礎知識を学び、自身で健康を守るための素養を身につけることを目的としています。さらに発展科目として「スポーツ文化」について考える講義科目が提供されています。

【重要】C群のスポーツ実習科目については、第1回目の授業の際にガイダンスを行いますので必ず出席してください。なお、受講に先立って、『履修登録の手引き』を熟読しておいてください。

※S学科は、専門科目と重複するため、C群は設定されていません。

Ⅲ. 教職課程の履修の要点

本学で取得できる教員免許状は、下の表の通りです。取得できる免許状の種類は、学科により異なります。

教員免許状を取得するには、教職課程を履修し、定められた教職関係の科目の単位を取らなければなりません。

数学／中学一種 ／高校一種	医療福祉工学科 メディアコンピュータ システム学科
保健体育 ／中学一種 ／高校一種	健康スポーツ科学科
工業／高校一種	医療福祉工学科
情報／高校一種	医療福祉工学科 デジタルアート・ アニメーション学科 デジタルゲーム学科 メディアコンピュータ システム学科

詳しくは、『学修必携』の「教職課程」に、教職課程履修についての重要な内容

が書いてありますので、履修希望者はよく読んでおいてください。

教職課程科目は、2年生から履修することが出来ます。ただし、毎年後期に実施する「教職課程履修希望者への事前説明会」に出席しておかなければ履修は出来ません。つまり、1年次後期に実施する事前説明会に出席しなければ、2年になっても教職課程科目の履修は出来ないことになります。2年次に実施する事前説明会に出席し、3年生から教職課程科目を履修する方法も考えられますが、教職課程は科目数が多いので、なるべく1年生のうちに参加し、2年生から履修できるようにしてください。

なお、「発達心理学」、「現代社会と青年の心理」は、1年次に総合科目A群として開講されますので、教職を希望する人はあらかじめ履修しておくことが望ましいでしょう。





MEMO





MEMO



*1 英語では一般教育を general education 教養養育を liberal arts と呼びます。

*2 その言葉が本来もっていた意味。もとの意味。原意。

2011年度クラス分け結果(数学)

EHNUPFLS 合計

938

Check

解析系 線形代数
878 692

基礎解析・微分積分

					基礎解析の学生数	基礎微積の学生数	微積の学生数
EHN	249	E	96	H	85	N	68
A-1	62		56		6		0
A-2	57		0		40		17
B	58		19		22		17
C	72		21		17		34
	249		96		85		68
					119	58	72
JU	190	J	76	U	114		
A-1	45		29		16		
A-2	46		0		46		
B	50		21		29		
C	49		26		23		
	190		76		114		
					91	50	49
PF	282	P	181	F	101		
A-1	51		10		41		
A-2	52		52		0		
B-1	56		17		39		
B-2	56		56		0		
C	67		46		21		
	282		181		101		
					103	112	67
LS	157	L	85	S	72		
A-0	39		0		39		
A-1	43		43		0		
A-2	33		0		33		
B	42		42		0		
	157		85		72		
					76	42	0
寝屋川計					313	220	188
					721		
総計					389	262	188
					839		

線形代数

単純に等分した。

EJ	172	E	96	J	76
S-1	58		58		0
S-2	56		38		18
S-3	58		0		58
	172		96		76
HF	186	H	85	F	101
S-1	63		63		0
S-2	60		22		38
S-3	63		0		63
	186		85		101
N	68	N	68		
S-1	68		68		
	68		68		
P	181				
S-1	60				
S-2	60				
S-3	61				
	181				
L	85				
S-1	85				

平成23年度AS数学科目フローチャート

群	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
EHJNFP	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎解析・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎微積分1・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">微分積分1・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">線形代数1</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎微積分1・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎微積分2・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">微分積分2・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">線形代数2</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎微積分2・演習 (EH/J/NF)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">確率・統計(EHJF), 微分方程式(EHF)</div>	
U	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎解析・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">微分積分1・演習</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">微分積分1・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">微分積分2・演習</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">線形代数学</div>	
再履修 EHJNFP		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(再)基礎解析・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(再)線形代数1</div>		
再履修 U		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(再)基礎解析・演習</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(再)線形代数学</div>

*N学科専門科目: 微分方程式, 確率・統計

*U学科3年前期: 確率・統計

群	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
L	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎解析・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">微分積分1・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">線形代数1</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">微分積分1・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">微分積分2・演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">線形代数2</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">微分積分3</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">応用解析</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">確率・統計</div>
S	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎解析・演習</div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">確率・統計</div>

大阪電気通信大学 総合情報学部 デジタルゲーム学科
ユニット選択制カリキュラム 2008年度からの教育課程

		ゲームの科学と人間を探索する		ソフトウェア開発の技を究める		ハードウェアと工学の最先端に触れる		芸術とデザインの表現を磨き下げる		独自のCGやアニメーションで魅せる		企画とマネージメントの感性を磨く		
		Science		Development		System		Art & Design		Graphics		Entertainment		
年次	開講期	科目カテゴリ	科目名	単位										
1	前期	ゲーム学	ゲーム学	2	ゲーム学	ゲーム学	ゲーム学	ゲーム学	ゲーム学	ゲーム学	ゲーム学	ゲーム学	ゲーム学	
		ゲームと人間	ゲームの心理学	2	ゲームの心理学	ゲームの心理学	ゲームの心理学	ゲームの心理学	ゲームの心理学	ゲームの心理学	ゲームの心理学	ゲームの心理学	ゲームの心理学	
		グラフィックス	ゲームグラフィックス入門演習	2								ゲームグラフィックス入門演習		
			コンピュータ・グラフィックス基礎論	2		コンピュータ・グラフィックス基礎論			コンピュータ・グラフィックス基礎論		コンピュータ・グラフィックス基礎論			
		クリエイション	グラフィックデザイン・演習	2					グラフィックデザイン・演習					
	後期	ゲームの科学	基礎生物学	2	基礎生物学							基礎生物学		
			基礎力学	2	基礎力学		基礎力学							
			ゲームの数学1 (幾何・線形代数)	2	ゲームの数学1 (幾何・線形代数)		ゲームの数学1 (幾何・線形代数)							
			論理・離散数学	2	論理・離散数学		論理・離散数学							
		情報工学	コンピュータ入門	2			コンピュータ入門				コンピュータ入門		コンピュータ入門	
	後期・集中	グラフィックス	2D グラフィックス演習	4								2D グラフィックス演習		
		クリエイション	デジタル音楽	2					デジタル音楽					
			デッサンの基礎・演習	4					デッサンの基礎・演習					
		ゲーム学	ゲーム工学概論	2			ゲーム工学概論							
		ゲームと人間	ゲームの心理学実験	2	ゲームの心理学実験								ゲームの心理学実験	

履修上の取り扱い

1. 一年度内に履修できる単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、留年生については、この限りではない。
2. 専門教育科目のうち、選択科目については、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目も履修可とする。ただし、受講人数が多い場合は、履修制限をおこなう。
3. コニット修得認定要件は、各ユニット科目の中から、必修科目を含み38単位以上履修すること。
4. 他学部専門教育科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として20単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については、履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限をおこなう。

専門教育科目 (必修)

- Science ユニットでの必修科目
- Development ユニットでの必修科目
- System ユニットでの必修科目
- Art & Design ユニットでの必修科目
- Graphics ユニットでの必修科目
- Entertainment ユニットでの必修科目



デジタルゲーム学科 就職活動記状況を記入して印刷。翌月の7日までにゼミ教員に手渡しで提出してください。

学生番号: W 名: 付: 2012/6/26 ゼミ教員:	活動メモ
--	------

【到達段階の入力内容】セル上段は状況を表す記号を入力 ... : その段階に進んだが結果は未, : 結果がOK, : 結果がNG,
セル下段はその段階に至った月日を入力 ... 月/日

活動先(企業名など)	到達段階(活動はどの段階ですか?)										
	プレ エントリー	合同 説明会	会社 説明会	ES, 履歴 書提出	書類選考	1次選考	2次選考	3次選考	最終選考	内定通知 受領	内定届 提出
例 株式会社デジタルゲームス	1/6		1/13	1/20	1/27	筆 2/3	面 2/10		面 2/17	2/24	2/25
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											

2011 年度 卒業研究・卒業制作ガイドライン

2011 年 3 月 1 日 大阪電気通信大学 総合情報学部 デジタルゲーム学科

卒業研究（8単位）の単位認定要件

- 1) 卒業研究・卒業制作中間報告会での報告
 - ・研究室ごとに開催日を2日に分けて、3研究室合同4セッションで実施
 - ・所属研究室の実施日への出席が必須
- 2) 卒業研究発表予稿の提出
 - ・学科指定のフォーマット、要件は別途指示する
- 3) 卒業研究・卒業制作発表会での発表
 - ・研究室ごとに開催日を2日に分けて、4研究室合同3セッションで実施
 - ・すべての実施日への出席が必須
- 4) 研究成果物の提出
 - ・論文のハードコピーを必須とし、付随する作品などを提示しても良い
 - ・論文の要件は別途指示する
 - ・作品は、展示、保存、再生が可能なことを条件に、任意の形態とする

以下は、卒業研究・卒業制作発表会において選抜された研究が対象学部での調整が必要なため、詳細は未定

- 5) 卒業研究概要の提出
 - ・学科指定のフォーマット、要件は別途指示する
- 6) なわてんへの出展
- 7) なわてん図録への投稿

卒業制作（6単位）の単位認定要件

- 1) 卒業研究・卒業制作中間報告会での報告
 - ・研究室ごとに開催日を2日に分けて、3研究室合同4セッションで実施
 - ・所属研究室の実施日への出席が必須
- 3) 卒業研究・卒業制作発表会での発表
 - ・研究室ごとに開催日を2日に分けて、4研究室合同3セッションで実施
 - ・すべての実施日への出席が必須
- 4) 制作成果物の提示
 - ・作品は、展示、保存、再生が可能なことを条件に、任意の形態とする
- 5) 卒業制作概要の提出
 - ・学科指定のフォーマット、要件は別途指示する

以下は、卒業研究・卒業制作発表会において選抜された制作が対象学部での調整が必要なため、詳細は未定

- 6) なわてんへの出展
- 7) なわてん図録への投稿

2011年					2012年								
9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 木		1 土		1 火		1 木		1 日	元日	1 水		1 木	
2 金		2 日		2 水		2 金		2 月	振替休日	2 木	後期試験	2 金	
3 土		3 月		3 木	文化の日	3 土		3 火		3 金	後期試験	3 土	
4 日		4 火		4 金	大学祭	4 日		4 水		4 土	後期試験	4 日	
5 月		5 水		5 土	大学祭	5 月		5 木		5 日		5 月	
6 火		6 木		6 日	大学祭	6 火		6 金		6 月	後期試験	6 火	
7 水		7 金		7 月	大学祭後片付け休講	7 水		7 土		7 火	後期試験	7 水	
8 木		8 土		8 火		8 木		8 日		8 水		8 木	
9 金		9 日		9 水		9 金	卒業研究予稿提出締切	9 月	成人の日	9 木		9 金	
10 土		10 月	体育の日	10 木		10 土		10 火		10 金		10 土	
11 日		11 火		11 金		11 日		11 水		11 土	なわてん(予定) 建国記念の日	11 日	
12 月		12 水		12 土		12 月		12 木		12 日	なわてん(予定)	12 月	
13 火		13 木		13 日		13 火		13 金		13 月		13 火	
14 水	TGS 2011搬入	14 金		14 月		14 水		14 土		14 火		14 水	
15 木	TGS 2011	15 土		15 火		15 木		15 日		15 水		15 木	
16 金	TGS 2011	16 日		16 水		16 金	発表会A日程	16 月		16 木		16 金	
17 土	TGS 2011	17 月		17 木		17 土	発表会B日程	17 火		17 金		17 土	
18 日	TGS 2011	18 火		18 金		18 日		18 水		18 土		18 日	
19 月	敬老の日	19 水		19 土		19 月		19 木		19 日		19 月	
20 火		20 木		20 日		20 火		20 金		20 月		20 火	春分の日
21 水	成績発表	21 金	中間報告会A日程	21 月		21 水		21 土	補講日	21 火		21 水	
22 木	成績発表	22 土		22 火		22 木		22 日		22 水		22 木	
23 金	秋分の日	23 日		23 水	勤労感謝の日	23 金	天皇誕生日	23 月		23 木		23 金	
24 土		24 月		24 木		24 土		24 火		24 金		24 土	学位授与式
25 日		25 火		25 金		25 日		25 水		25 土		25 日	
26 月		26 水		26 土		26 月		26 木		26 日		26 月	
27 火		27 木		27 日		27 火		27 金	論文および概要提出	27 月	成績発表	27 火	
28 水		28 金	中間報告会B日程	28 月		28 水		28 土	補講日	28 火	成績発表	28 水	
29 木		29 土		29 火		29 木		29 日		29 水		29 木	
30 金		30 日		30 水		30 金		30 月	選抜結果の発表			30 金	
		31 月				31 土		31 火				31 土	

TECHNOLOGY × ART

2012年度からの教育課程

ユニット選択制カリキュラム科目リスト



大阪電気通信大学 総合情報学部 デジタルゲーム学科

TECHNOLOGY × ART

ユニット選択制カリキュラムについて

デジタルゲーム学科では、ゲームの企画・制作をおもな題材として、工学・芸術・科学を幅広く学習し、知識と視野を広げ、技能を磨き、社会での実務に対応できる人材育成をおこないます。

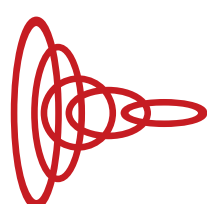
学科が対象とする学問領域は広範囲にわたります。そのため、4年間で効率的かつ効果的に学習できるよう、6つの科目群(ユニット)に編成しています。学生個々の特性や目的に合わせて科目履修プログラムを作成することができるカリキュラムです。

ユニットは、ユニット内の必修科目を含み34単位以上を修得すると完成となります。必修ユニットである Career に加えて、個々の目的に応じた2つ以上のユニットを完成させることが卒業要件です。

また、東京ゲームショウへの作品展示や、国際的視野を持つための海外留学制度、企業での実践的方法を体験するインターンシップなど、幅広い知識と経験を積むためのしくみも用意されています。

4年次では学びの集大成として、卒業研究もしくは卒業制作に取り組みます。その成果は卒業研究・制作展として広く一般に公開します。

必修ユニット	
Career	ゲームと社会の接点を探求する科目群 社会人や組織人として、社会でキャリアを形成する技術を養います。
選択ユニット	
Development	ソフトウェア開発の技を究める科目群 ソフトウェア開発を中心に、ゲーム開発の技術を学びます。
System	ハードウェアと工学の最先端に触れる科目群 ハードウェアやネットワークを含めたシステム構築技術を学びます。
Art & Design	芸術とデザインの表現を掘り下げる科目群 デッサンなどの基本から理論、デザインによる表現技術を学びます。
Graphics	独自のCGやアニメーションで魅せる科目群 CGやアニメーション、Webなどのコンテンツ制作技法を学びます。
Produce	企画とマネージメントの感性を磨く科目群 エンターテインメントとしてのプロデュースに関する知識を学びます。



大阪電気通信大学
O.E.C.U. Osaka Electro-Communication University

お問い合わせ
入試部
〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8
TEL.072-824-1131
<http://www.osakac.ac.jp>

年次	開講期	科目名	コマ数	単位数	Career		Development		System		Art & Design		Graphics		Produce			
					必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
					科目数▶	単位数▶	12	10	15	11	12	11	10	9	8	8	10	10
1	前期	アクティブシンキング論・演習	2	4														
		オブジェクト指向プログラミング入門・演習	2	4														
		基礎生物学	1	2														
		基礎力学	1	2														
		グラフィックデザイン・演習	1	2														
		ゲーム学	1	2														
		ゲームの心理学	1	2														
		ゲームの数学1 (幾何・線形代数)	1	2														
		ゲーム制作入門演習	1	2														
		コンピュータグラフィックス基礎論	1	2														
		コンピュータ入門	1	2														
		スクリプトプログラミング入門・演習	2	4														
		大学入門	1	2														
		デジタル造形	1	2														
	問題解決の基礎	1	2															
	後期	2D グラフィックス演習	2	4														
		アルゴリズム基礎論	1	2														
		インタラクティブメディア概論	1	2														
		オブジェクト指向プログラミング演習 1	1	2														
		基礎天文学	1	2														
		基礎物理学	1	2														
		ゲーム・メディア制作特論	1	2														
		ゲーム工学概論	1	2														
		スクリプトプログラミング演習 1	1	2														
		知的所有権	1	2														
		デジタル音楽	1	2														
		デジタル回路基礎	1	2														
		デッサンの基礎・演習	2	4														
日本語表現法・演習		1	2															
プロジェクト実習 1	2	2																
論理・離散数学	1	2																
2	前期	3D グラフィックス・演習 1	2	4														
		アンケート調査法基礎	1	2														
		映像音響論	1	2														
		オブジェクト指向プログラミング演習 2	1	2														
		基礎化学	1	2														
		ゲームシナリオ	1	2														
		ゲームの社会学	1	2														
		ゲームの数学 2 (微積分学)	1	2														
		コンピュータアーキテクチャ	1	2														
		情報産業英語	1	2														
		情報通信論	1	2														
		データ構造とアルゴリズム	1	2														
		デザイン基礎	1	2														
		人間工学	1	2														
	ヒューマンセンシング	1	2															
	プロジェクト実習 2	4	4															
	マーケティング論	1	2															
	後期	2DCG アニメーション・演習	2	4														
		オブジェクト指向ソフトウェア開発	1	2														
		確率・統計入門	1	2														
		ゲームデザイン	1	2														
		ゲーム評価法・演習	1	2														
		コミュニケーション技法	1	2														
		コンセプトメイキング	1	2														
		造形表現演習 1	2	4														
		テクニカルライティング	1	2														
		デジタルインタフェース	1	2														
		認知科学	1	2														
ヒューマンインタフェース		1	2															
プロジェクト上級実習		2	2															
メディアアート・演習		1	2															
特別活動 A		2	ユニット外の選択科目：学科指定の学外における各種活動によって単位認定 (シェリダン大学交換留学など)															
特別活動 B		2																
3	前期	3D グラフィックス演習 2	1	2														
		3D ゲームプログラミング・演習	2	4														
		Web デザイン・演習	1	2														
		キャリアプランニング	1	2														
		ゲームインタフェース演習	2	4														
		ゲームセンサー論	1	2														
		ゲームと教育	1	2														
		ゲームと人工知能	1	2														
		コマーシャルデザイン	1	2														
		コンピュータハードウェア	1	2														
		サインデザイン	1	2														
		情報セキュリティ	1	2														
		スクリプトプログラミング演習 2	1	2														
		プレゼミ	1	2														
	プログラミングシステム論	1	2															
	プロダクトデザイン・演習	2	4															
	並列・ネットワークプログラミング・演習	1	2															
	モーションプログラミング演習	1	2															
	後期	3DCG アニメーション・演習	2	4														
		VR プログラミング演習	1	2														
		Web プログラミング	1	2														
		インターンシップ		2														
		エディトリアルデザイン・演習	1	2														
		オペレーティングシステム	1	2														
		キャラクターデザイン	1	2														
		ゲームマネージメント	1	2														
		ゲーム制作実習		2	ユニット外の選択科目：東京ゲームショウでの作品展示によって単位認定													
		形式システム論	1	2														
コンピュータミュージック・演習		1	2															
ゼミナール		1	2															
造形表現演習 2		2	4															
データベース		1	2															
バーチャルリアリティ	1	2																
パズルの数学	1	2																
メディアプロデュース・演習	2	4																
4	後期 通年	イベントプロデュース	1	2														
		卒業研究 卒業制作		8 6	卒業研究・卒業制作のいずれか選択必修													